

名古屋市立大学  
蝶ヶ岳ボランティア診療所  
2025 年度報告書





## 診療班の未来像 13

蝶ヶ岳ボランティア診療班 代表 酒々井眞澄(すずいますみ)

寄稿の機会を与えていただいた診療班関係者に感謝いたします。本活動は学内外の多くの方々のサポートにより成り立っています。

2025年は個人100名(匿名希望2名含)と自治体等5団体から金銭的なサポートをいただきました。2月19日の幹事会では2026年度の予算案が承認されました。私たちは1年間準備を進め2025年7月26日から8月24日まで4週間にわたり、参加者73名(学生46名、医療スタッフ27名)、期間中にのべ63名の患者診療(急性高山病45%、外傷25%、筋肉痛・関節痛13%、その他17%)に取り組みました。全日程に学生・医療スタッフを配置し、医師不在期間にはWEBによる医療相談を受け付ける体制としました。実質的な活動再開から3年間で計106名の所属学生が2,677mの登山と診療補助を経験することができたことは今後の活動継続につながる成果です。関各位にはご協力どうもありがとうございました。

安全な活動は私たちの最優先事項です。2025年も台風7号、8号および9号の接近に伴い2つの学生班および医療スタッフには登山計画の変更を指示しました。台風発生後の注意深い動向観察、班員の把握(氏名、連絡先、現在地、人数)および3役(教員等)と学生との密接な連絡体制は極めて重要です。台風発生時の対応マニュアル(p14参照)をごらんください。安全な活動に真摯に取り組んでくれる人々の姿を次世代に引き継ぐことが肝要です。2025年から(株)山の天気予報ヤマテンが学生向けアカウントサービス(学生プラン)を開始したことを受けて、私たちは同年6月より学生プランを契約しました。安全な活動に是非活かしていただければと思います。

2025年の収支決算ではコロナ禍以前の水準までほぼ回復しています。しかし、班員1名あたりの活動コストは約2.5倍に増加し各種消耗品・備品の調達コストも増加しているため、活動費の収支バランスを考慮した運営が引き続き求められます。詳しく会計収支決算報告書(p28参照)をごらんください。私たちは、運営会議、勉強会、登山医学会・関係各団体からの情報収集、練習登山、猪熊隆之氏(ヤマテン代表取締役・中央大学山岳部監督)の「山岳気象」講演聴講などにより準備を進めて診療活動に活かします。

2026年3月に本学学長任期満了にともないご退職される浅井清文先生(元医学研究科長、元グリア細胞生物学分野教授)におかれては当該診療班創設以来、継続的に運営・診療にご協力いただきました。心より感謝申し上げます(浅井先生ご寄稿文は2026年報告書に掲載)。

2024年よりプレスリリース(5月初旬)を復活させて活動を広くアナウンスし壮行会(6月初旬)も行っています。班員の安全を最優先することを念頭に置きながら2026年夏の診療活動をみすえて私たちは努力する決意です。皆様におかれては今後ともご理解とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

## 蝶ヶ岳ボランティア診療所 診療所長としてのご挨拶

蝶ヶ岳ボランティア診療班  
診療部長 服部友紀(はっとりともり)

蝶ヶ岳ボランティア診療班に関わる皆様、いつもご協力・ご声援ありがとうございます。2023年度から、薊隆文(あざみたかふみ)先生の後任として診療所長を拝命いたしました名古屋市立大学病院救急科の服部友紀です。

COVID パンデミックが明けて、昨年度からパンデミック前と同じ日程で診療所を開所することができ、本年度は7月26日から8月24日の間で無事に診療活動を終了することができました。活動に協力、支援、寄付、応援してくださっている方々やOB・OGの皆様ののおかげだと感じています。初めて山頂での診療活動を経験する学生や経験値の少ない学生も多くいましたが、頼もしい？先輩たちと共によく頑張ってくれました。一緒に活動していた先輩が医療者として活動に参加し頼もしい姿を見て影響された者もいたと思います。

私自身も2泊3日で参加させていただきました。私の診療活動は1-2名のみでのんびり過ごさせていただきました(その前後は5名以上と繁盛しており少し申し訳ない気持ちでした)。満点の星空と穂高連峰の壮大さは何度見ても感動します。

毎年の方針である「とにかく部員・参加者の安全第一」を心がけて「転ばぬ2歩先の安全策」をとりながら今後も尽力します。皆様の引き続きのご支援とご協力をお願いします。

## 蝶ヶ岳診療班 2025 年

蝶ヶ岳ボランティア診療班

運営委員長 坪井謙(つぼいけん)(成田記念病院外科)

昨年度に引き続き、平日も含めた運営ができました。皆様のご協力に感謝申し上げます。ありがとうございます。一方でヒュッテでは宿泊者数を制限した予約制が続き、患者数はコロナ前から減少したままになっています。

昨年度までは長野県・松本市から補助金が減額されていたこと、寄付金額が十分ではないなどで収入が少なく、夏山診療スタッフに参加費を頂き、報告書の発行部数を制限するなど支出を抑えました。今年度はコロナ禍以前の補助金を満額いただけ、多数から寄付金のご協力いただきましたので、診療スタッフ参加費や報告書発行部数を戻すことができました。大変感謝しております。しかし、学生は依然半数ほどの参加制限にとどまっているのが現状です。夏山診療所の需要と参加者数は収支面からも次年度以降の課題となります。

名古屋駅で毎年初夏に各観光課、山小屋、登山関連企業が集まる夏山フェスタがあります。今年は蝶ヶ岳ヒュッテブースの一部として学生が参加し、蝶ヶ岳ヒュッテスタッフ、一般登山者らと交流を持つことができました。また、同時に寄付金集めも行い運営費として賄わせていただきました。次年度以降も続けて参加できればと思います。

さて、2025 年 10 月 26 日に山岳診療所間の WEB 会議が行われました。本診療所の状況を他診療所の運営と比較して考えてみます。

①**運営後継者**: 運営者の高齢化や継承者不在問題があります。幸い当診療班は三役を中心に薬剤師の早川先生が常に関わっておられますし、MLなどで診療班員から助言をいただいています。いずれは世代交代を見据えた体制を整える必要があります。

②**医療スタッフの参加**: 遠方で縁が切れてしまう、子供ができると行きにくいのは、他の診療所でも同じ様です。過去 OBOG の参加者状況を検討すると、卒後数年で参加しないと、そのまま参加しないことが多く、研修医やレジデントの段階で参加を促すことが大事です。

③**登山客の変化**: 富士山など登山客が多い診療所では外国人対応の問題があります。当診療所では経験は少ないですが、蝶ヶ岳ヒュッテとしては外国人の登山客は近年増えてきています。言葉の問題だけでなく、装備や日程に難がある方がいると聞いています。登山ツアーにおいても弾丸登山が復活してきており、東京朝発で昼から蝶ヶ岳を登るツアーがあるとも聞いています。登山医学会としても行政やツアー会社へ提言を検討しているそうです。

④**WiFi 環境**: 昨年から衛星回線を使った STAR LINK が蝶ヶ岳ヒュッテ・大滝山荘を含め、多くの山小屋で導入されネット環境は劇的に良くなりました。まだ導入していない診療所もある中で、当診療班は初年度から連絡には衛星電話や無線回線を利用してメーリングリストやビデオ通話でやり取りをしてきました。最近では電波の安定した au 回線でテザリングしています。今後バックアップとして、山小屋の STAR LINK を使用することができそうです。

大きな問題なく過ごせていますが、これからの課題は確かにあり、みなさまのご協力が引き続き必要となりますので、よろしく願い申し上げます。

**名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療所**  
**2025年度報告書**  
目次

蝶ヶ岳ボランティア診療所設立に関する合意書	5
蝶ヶ岳ボランティア診療班規約	6
名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療班に参加ご希望の皆様(新規参加)	8
危機管理体制について	11
台風発生時の対応マニュアル	14
上高地ルートを利用した活動報告	18
参加者および同伴者の宿泊経費について(2025年)	20
運営組織	21
参加・協力学生	22
診療班活動概要・運営上の主な変更点・診療班活動記録	23
診療所でのネットワーク障害とその対応	27
会計収支決算報告	28
スタッフ派遣日程表・学生登山日程表	29
蝶ヶ岳ボランティア診療班カルテ	31
2025年の診療所開所に向けた各部門の準備、活動後の反省と対策	36
診療記録	39
使用薬剤集計	41
処方および薬剤等の準備(調剤)時の注意事項	44
酸素ボンベについて	46
越冬させた輸液剤の取り扱いについて	49
症例報告	50
雲上セミナー記録	52
予防的介入活動報告	54
参加者感想文	56
学生感想文	59
患者さんからのお言葉	67
メディア取材及び資料集	68
診療活動の取材に関する合意書	70
診療班での急なメディア取材申し込みへの対応フローチャート	71
短時間での一時閉所・完全閉所チェックリスト	72
いわゆるコロナ禍を乗り越えて診療班活動を継続するための方策	75
コロナ禍からの蝶ヶ岳ヒュッテ・診療所の変遷	76
寄付者御芳名	78
編集後記	79

# 名古屋市立大学

## 蝶ヶ岳ボランティア診療所

### 設立に関する合意書

名古屋市立大学蝶ヶ岳診療班は名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療所設立に際して蝶ヶ岳ヒュッテ設置者と以下の項目に関する合意を得たことを確認し、双方の理解と協力の下に診療所を円滑に運営し、蝶ヶ岳山域の登山者の安全確保に寄与することに努める。

- 第 1 条 設置場所は長野県南安曇郡堀金村、蝶ヶ岳ヒュッテ(以下ヒュッテと略)内とする。
- 第 2 条 設置主体は名古屋市立大学の学生、およびその教職員を中心とする非営利の任意団体(名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療班、以下診療班と略)である。ヒュッテはその運営を援助する。
- 第 3 条 診療所名称は名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療所とする。診療所長は運営委員会で決定し、学内に公示する。
- 第 4 条 開設期間は 7 月 20 日頃～8 月 20 日頃までの約 1 ヶ月間を原則とする。具体的な開設期間は各年度開設前に診療班がヒュッテに通知し合意をえる。
- 第 5 条 ヒュッテは診療所の運営に対して以下の支援を行なう。(1)各年度に必要な診療機器、薬品の荷上げはヒュッテが責任を持って行う。その量、回数は診療班とヒュッテとの事前協議によって定める。(2)診療所の運営に必要な水、電気、ガス等はヒュッテ側が無料で供給する。(3)診療班員のヒュッテ滞在のための居住区域と寝具等をヒュッテは用意し、その滞在費(3食付き宿泊費)は 1 人 1 泊 1000 円とする。(4)ヒュッテは、診療活動を円滑に行えるように、国立公園管理区域内の道路および駐車場が利用できるよう配慮、準備する。
- 第 6 条 診療所活動は名古屋市立大学医学部の教育・研究と関連したものであり、診療所班員は蝶ヶ岳山域において、山岳遭難救助活動に参加する義務を負わない。
- 第 7 条 診療班が救急搬送の必要を認めた場合はヒュッテが搬送および、搬送支援の連絡任務を負う。搬送および、搬送に関わる費用負担には診療所は一切関知しない。

- 第 8 条 診療班員は診療所設置場所が国立公園内であることを認識し、環境保全に努め医療廃棄物の処理はヒュッテの指示に従う。
- 第 9 条 診療班は会計を決定し、診療班の収入と支出の管理を行う。
- 第 10 条 診療班員はヒュッテの運営方針を尊重し、診療所区域の清掃に責任を持つ。
- 第 11 条 診療行為に起因する争議にはヒュッテ側は一切責任を負わない。
- 第 12 条 診療班の明らかな過失によるヒュッテの器物の損壊があるときは、診療班はヒュッテに対して弁償の責任を負う。
- 第 13 条 診療班は診療所の運営が困難となった場合には、その旨をヒュッテ側に通知し、運営を中止できる。その場合は次期診療所開設日の 1 年以上前に行わなくてはならない。
- 第 14 条 ヒュッテが診療所の開設の必要を認めない場合、または診療班以外の団体に運営を委嘱する場合、その旨を診療班に通知し、診療所を閉鎖できる。その場合は次期診療所開設日の 1 年以上前に行わなくてはならない。
- 第 15 条 合意書の事項に変更の必要を認めた場合は診療班代表、診療所長またはヒュッテ代表が発議し、協議を行って内容の変更を加えることができる。
- 附則 この合意書は 1998 年 4 月 1 日から発効する。

1998 年 3 月 31 日

蝶ヶ岳ボランティア診療所代表  
医学部名誉教授 太田伸生

名古屋市立大学医学部  
蝶ヶ岳ボランティア診療所所長  
医学部教授 武内俊彦

蝶ヶ岳ヒュッテ／大滝山荘 代表 故 神谷圭子

# 名古屋市立大学

## 蝶ヶ岳ボランティア診療所規約

名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療班(以下「診療班」という。)は、1997年度医学部教授会の承認を受け、1998年度より北アルプスの中部山岳国立公園蝶ヶ岳にある蝶ヶ岳ヒュッテ内に「名古屋市立大学医学部蝶ヶ岳ボランティア診療所」を設置することを決定した。2000年度に、学生組織はクラブ活動として組織化されて、全学部の活動となった。学生組織は本活動を支える全学的な組織であることから、これを契機に同診療所を「名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療所」と名称変更した。診療班は、本規約により、診療班を運営し、また、診療所を運営し、また、その他必要な事項についてもこの規約の方針に従う。

### 目次

第1章 総則(第1条—第3条)

第2章 組織(第4条—第11条)

第3章 管理業務(第12条—第15条)

第4章 雑則(第16条・第17条)

#### 第1章 総則

##### (目的)

第1条 診療班は、人命救助や健康管理の重要性を認識し、ボランティア医療活動を通じた社会貢献を目指すことを目的とする。また、高地医学、遠隔地医療及び環境保全の研究・教育の場としての意義も有する。

##### (事業)

第2条 診療班は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 登山者の疾病治療、高山病予防活動その他治療・予防活動
- (2) 蝶ヶ岳近辺の環境保全
- (3) 前2号に掲げる事項に係る研究・教育
- (4) その他医療活動、社会貢献、研究・教育に関する事業

##### (構成)

第3条 診療班は、名古屋市立大学の学生、教職員及び卒業生の有志で構成される。(以下、診療班を構成する者を班員という)

2 班員以外の者及び夏山参加者であっても、診療班員による推薦の後、運営委員会での承認を経て班員として登録できる。この登録は、本人の意志により解除することができる。

3 前項に該当する者の入退会は、運営委員会で記録し、これを毎年度確認するものとする。この場合において、

その者との連絡が途絶して2年が経過した場合、あるいは運営委員会の協議により、診療班は、その者の班員としての登録を解除することができるものとする。

#### 第2章 組織

##### (役員)

第4条 診療班に、役員として、代表1名、診療所長1名及び運営委員長1名を置く。

- 2 役員は、それぞれ次に掲げるとおりとする。
  - (1) 代表は、診療班を代表し、診療班の活動を統轄する。
  - (2) 診療所長は、蝶ヶ岳ボランティア診療所を代表し、診療業務を統轄する。
  - (3) 運営委員長は、代表及び診療所長を補佐し、診療班の活動全般を司る。
- 3 役員は、幹事会において班員の中から選出された候補者のうちから、総会において承認を得た者とする。
- 4 役員は、総会までの1年とする。ただし、再任を妨げない。  
(学生代表)

第5条 診療班に、学生から選出される学生代表1名を置く。

- 2 学生代表の役割は、次条以降に定める診療班の運営に係る各種会議の招集・議長等、学生の意見の統括その他必要な事項とする。  
(運営組織)

第6条 診療班に、総会、幹事会、運営委員会及び会計監査を置く。

##### (総会)

第7条 総会は、診療班の最高議決機関であって、代表がこれを招集する。

- 2 総会は、班員をもって構成する。
- 3 総会は、年1回開催する。ただし、代表が特に必要があると認めるときは、臨時総会を開くことができる。
- 4 総会は、班員の過半数の出席により成立する。
- 5 総会の議長は、原則として年度の学生代表とする。ただし、総会の同意が得られる場合には、学生代表以外の者を議長とすることができる。
- 6 班員は、委任状を提出し、議場委任することができる。
- 7 議事は、出席者の過半数で決定する。
- 8 総会は、予算・事業計画の決定、前年度活動実績及び今年度の展望の報告、規約の改正に係る同意等を行う。

##### (幹事会・幹事)

第8条 幹事会は、総会に次ぐ議決機関であり、診療班の運営方法を決定し、これを班員へ広告する。

- 2 幹事会は、幹事、学生代表により構成され、運営委員長がこれを招集する。
  - (1) 幹事会は、幹事、学生代表の過半数の出席により成立する。

(2) 議事は、出席者の過半数で決定する。

- 3 幹事は、5名程度とし、班員の有志のうちから総会で承認された者とする。
- 4 幹事会は、役員候補者を選出する。
- 5 幹事会の議長は、原則として運営委員長とする。ただし、幹事会の同意が得られる場合には、運営委員長以外の者を議長とすることができる。
- 6 代表が必要と認めるときは、幹事会に委員以外の者を出席させ、説明又は意見を聴くことができる。
- 7 幹事の任期は、総会までの1年とする。ただし、再任を妨げない。

(運営委員会・運営委員)

第9条 運営委員会は、診療班の運営に関し必要な事項を協議するものとする。

- 2 運営委員は、班員の有志とする。
- 3 運営委員会は、毎週1回を常例として開催し、学生代表がこれを招集する。
- 4 運営委員会の議長は、原則として学生代表とする。ただし、運営委員会の同意が得られる場合には、学生代表以外の者を議長とすることができる。
- 5 運営委員会は、活動計画等の診療班に関する事項、班員の入退会の記録等について、提案又はその決定を行う。
- 6 前項の提案及び決定は、運営委員会の会議のほか、蝶ヶ岳メーリングリスト等によって行うことができる。
- 7 議長は、議事録を作成させるものとする。この議事録は、蝶ヶ岳メーリングリストにより、公開・報告される。
- 8 運営委員の任期は、総会までの1年とする。ただし、再任を妨げない。

(白蝶会)

第10条 別に組織される白蝶会は、診療班への指導・後援を行うものとして、また、第2条の事業を行うために、診療班に対してスタッフ派遣などを行うことができる。

- 2 診療班は、白蝶会の運営等に係る協力を行うものとする。

(会計監査)

第11条 会計監査は、診療班の会計業務を監査する。

- 2 会計監査は、監査の結果に基づき、必要があると認めるときは、代表に意見を提出することができる。

### 第3章 管理業務

(会計)

第12条 診療班の会計業務は、学生から選出された会計が行う。

- 2 会計の任期は、総会までの1年とする。ただし、再任を妨げない。
- 3 幹事は、会計を補佐する。

(薬剤・衛生材料管理)

第13条 診療班の薬剤・衛生材料管理業務は、学生か

ら選出された薬剤係が行う。

- 2 薬剤係の任期は、総会までの1年とする。ただし、再任を妨げない。
- 3 幹事は、薬剤係を補佐する。

(会計年度)

第14条 蝶ヶ岳ボランティア診療班の会計年度は、11月1日に始まり、翌年10月31日に終わる。

(活動経費)

第15条 診療班の活動に要する経費は、寄附金、名古屋市立大学医学会助成金、名古屋市立大学からの支援金その他の収入をもって充てる。

### 第4章 雑則

(規約の改正)

第16条 この規約は、登録されている診療班員の誰もが異議を申し立てる権利を有する。当該申立てがあった場合には運営委員会又は幹事会で討議し、総会において出席者の3分の2以上の同意で改正できる。

(雑則)

第17条 この規約に定めるもののほか、診療班及びその運営等に関し必要な事項は、総会、幹事会又は運営委員会の議を経て、代表が定める。

附則 この規約は1998年4月1日から発行する。

附則 2004年 11月9日 一部改正

附則 2005年 11月8日 一部改正

附則 2014年 2月1日 一部改正

附則 2019年 1月19日 一部改正

# 名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療班に 参加ご希望の皆様(新規参加)

蝶ヶ岳ボランティア診療班代表 酒々井眞澄

平素より、名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療班の活動へのご理解とご協力、どうもありがとうございます。

新規参加者の皆様には、当診療班の規定にもとづき提出していただく書類があります。別途の送付書類をよくご覧いただき、必要事項を記入のうえ書類の提出をお願いします。

次の書類を提出して下さい。

- |   |
|---|
| <p>①診療班参加の確認事項<br/>②資格(免許証)および身分証明書(資格(免許証)および顔写真付き身分証明書の写し)<br/>③スケジュール部門アンケート</p> |
|---|

①②③の書類の提出をもって参加予定者とさせていただきます。

郵送もしくは E-mail でご提出ください。

担当者宛先:診療班運営委員長 坪井謙

郵送:名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1 名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療班

E-mail:chogatake-staff@umin.ac.jp

書類が整っていることを確認後に、新規参加の可否は診療班運営会議にて最終的に決定します。参加確定後、蝶ヶ岳ボランティア診療班ホームページの参加者日程にお名前を提示します。適宜ご確認ください。

登山前に必ず以下の2点を行ってください。

- ・登山計画書を記入し、参加する班のリーダーに提出する(原則、登山日の 1 週間前までを期限とします、期限当日や直前の場合は参加を認めません)。
- ・参加する班のリーダーより送られるスタッフマニュアルをよく読む。

登山予定日 1 週間前までに診療所でご一緒する学生から最終確認などの連絡をさせていただきます。(連絡が来ない場合は、お手数ですが下記までご連絡下さい)

ご質問などの際はスケジュール担当(cho.schedule.2677@gmail.com)までご連絡ください。

何卒よろしく申し上げます。

## 診療班参加の確認事項

以下の項目についてご確認後、□に✓をご記入ください。  
ご記入後に自署をお願いします。

- 顔写真付き身分証明書の写しを提出します。医療関係者は資格(免許証)の写しを蝶ヶ岳ボランティア診療班に提出します。
- スケジュール部門アンケートを記入し、提出します。
- 患者様および診療班員から得た個人情報は、診療班で必要とされる活動以外の目的では使用しません。

上記事項を確認したので診療班代表酒々井眞澄に提出します。

年 月 日

署名\_\_\_\_\_

## スケジュール部門アンケート

○氏名（よみがな）

\_\_\_\_\_（性別　、年齢　）

○自宅住所

〒 \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

○メールアドレス（緊急連絡に使用する場合があります。正確にご記入ください。）

PC \_\_\_\_\_

携帯 \_\_\_\_\_

○電話番号（緊急連絡に使用する場合があります。正確にご記入ください。）

自宅 \_\_\_\_\_ / 携帯 \_\_\_\_\_

○職歴等

・卒業学校（卒業年次）

\_\_\_\_\_

・勤務先

\_\_\_\_\_

○登山経験

・登山歴

\_\_\_\_\_

・どれくらいの高さの山にどの程度の頻度で登られたことがありますか

\_\_\_\_\_

○普段どの程度運動をしていますか

○蝶ヶ岳診療班を知った経緯はどのようですか（HP、新聞、テレビ、雑誌、友人の紹介など）

推薦者 \_\_\_\_\_ 様

推薦者の連絡先（メールアドレス、携帯電話番号など） \_\_\_\_\_

# 危機管理体制について

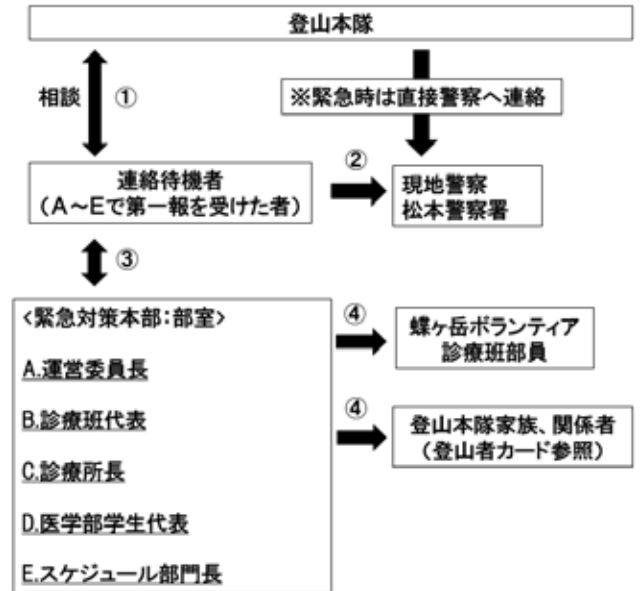
2015.6.23 運営委員会

## \*安全の確保

班員の安全が全てに優先する。現地のリーダーは班員の安全を第一に考えて判断、行動し、班員の退避により診療活動へ支障が出たとしても、安全を最優先する。活動中は参加する全ての班員は安全確保の規約に従う義務を有する。

## \*連絡義務

班員は登山開始時・診療所到着時・下山開始時・下山完了時には、全体メンバーリストにて本人があるいは担当学生を介してその旨を報告する。



## 1.緊急連絡網

- ・緊急事例:何らかの理由(遭難、事故等)で班員の生命に危険が及ぶ場合。
- ・緊急時、診療所から、連絡待機(※)に電話または Skype を用いて連絡。  
(※)診療所からは(A)運営委員長、(B)診療班代表、(C)診療所長、(D)医学部学生代表の順に連絡をとり、第一報を受けたものが連絡待機として情報の集約・管理を行う。
- ・下界にて第一報を受けた者は、(A)、(B)、(C)、(D)、(E)スケジュール部門長に連絡をとる。
- ・(B)は緊急対策本部を部室内に設置する。
- ・他の関係者、保護者等には(D)中心に連絡を適宜取り次ぐ。
- ・緊急時、部室は診療所と交信する緊急対策本部として利用し、情報の集約・管理は部室(緊急対策本部)に一元化する。
- ・部室が開いていない時間帯では、部室が開くまでの間、情報の管理は連絡待機が担う。部室が開き次第、部室にて情報を集約・管理する。
- ・診療所における学生連絡係は連絡待機と定時連絡をして状況の把握、情報管理、報告を行う。(集まった情報の正確性は重要、単なるうわさや情報修飾に注意。診療所との情報のやりとりは、原則連絡待機が担当する)
- ・(B)は緊急対策本部の役割が終了した時点で緊急対策本部を解散する。

## 2.連絡法

- ・ヒュッテ電話(ゼロ発信必要)
- ・ヒュッテ公衆電話(ヒュッテ電話とは回線が違う)
- ・個人の携帯電話
- ・Discord・メール
- ・全体メーリス

## 3.出動の要請

蝶ヶ岳ボランティア診療所設立に関する合意書 第6条参照

- ・診療所班員は山岳遭難救助活動に参加する義務を負わないことを原則とし、山岳遭難救助活動は診療班の本務とするものではないことに留意する。
- ・2重遭難の防止が重要である。現場のスタッフとヒュッテ駐在救助隊員(酒井雄一さん等)の協議により行う。診療所近傍＝声の届く範囲では、診療班の主体的判断で病人を診療所へ搬送することがある。遠隔地＝蝶ヶ岳山頂テント場、瞑想の丘を越えた山岳地帯で救援活動補助を行う場合、ヒュッテ駐在の救助隊員と協議して、その指示に従う。(出動指示は原則断る)
- ・山頂での野外救援活動の指令リーダーはヒュッテ駐在救助隊員(酒井雄一さん等)とする。
- ・安全に配慮して診療班は診療所で待機することを原則とする。
- ・安全な医療活動ができると現地での判断ができれば、ヒュッテ駐在救助隊員の指示に従って救援活動を補助する。遭難者から直接診療班スタッフに救援要請が入った時も、ヒュッテ駐在救助隊員との協議・指示で補助することがある。
- ・ヘリコプター要請(長野県警または長野県広域消防隊)については、医療スタッフが必要と判断した場合、ヒュッテ駐在救助隊員(酒井雄一さん等)等を介して要請する。(ヒュッテは山岳遭難に関する共用の無線を利用できる)
- ・必要に応じてヘリ搬送を要請し、その後は長野県警山岳遭難対策本部の指示に従う。(処置や搬送法については医療アドバイスに留める)

### \*ヘリ搬送での留意事項

ヘリ搬送の可否および方法はパイロットの最終判断で行う。

救助には救助する側(救助者)の安全確保を優先し、2次遭難を避ける。

医療者側からの指示は救助者に重大な対応や制限を強いることがあることを自覚する。

ヘリ要請時は必要に応じて診療班員も情報共有にかかわる。

診療班員は医療アドバイスをとおして救助活動をサポートする立場である。

#### ④医師不在時の対応・医療相談

名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療班ホームページ、蝶ヶ岳ボランティア診療所の診療体制の項を参照 ([http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/igakf.dir/chyo\\_naiki.html](http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/igakf.dir/chyo_naiki.html))

・医師不在時あるいは初期研修医等の診療でサポートが必要な場合や、受診患者が専門分野でなく困った場合などには、前述の連絡網にてある程度対応することが可能。

・医師不在時にできる医療は限られている。その旨を患者に伝える。

→医師とは相談できる程度である。薬剤師がいれば患者の要請がある場合、医師を通じて処方是可以、など。

・問診・診療などをオンラインで補助する場合、患者の同意が必要である。

#### ⑤悪天候時の対応

\* 行動の原則:

診療班員は長野県地方または岐阜県地方に気象警報が発令中の時は、下山・入山などのすべての行動を中止する。台風のコースが発表されて、近日中に長野県に警報発令が予測できる状況では、下山の繰り上げ、または入山の延期を検討して判断する。

\* インターネットと電話連絡網が使える状態:

悪天候時またはそれが予測される場合にリーダー(班員)は運営委員長に連絡・協議し、運営委員長は行動予定を最終決定し責任をもって班員の安全を確保する。班の行動予定を変更すべき場合には、運営委員長はメールを介して文書で全診療班員に伝達する。運営委員長がこの職務を遂行できない場合には、運営委員がこの職務を代行する。

\* インターネットと電話連絡網が使えない状態:

現地のリーダーは医師、山小屋のメンバーと協議し、班員の安全を第一に考えた判断をする。リーダー(班員)は連絡が可能になった時点で状況を運営委員長(不在時は運営委員)にすばやく報告する。行動完了予定時刻を過ぎてなお連絡不通の場合は連絡網リストA~Dの者および運営委員は想定される事態に責任を持って対応する。

\* ルート選択:

最も安全な避難ルートは「長堀尾根---徳沢---上高地ルート」である。緊急事態では徳沢まで自動車による搬送を要請することも可能である。ただし台風の直撃や、局地的な地震災害を受けた場合のルート状態は予測が難しい。できる限り目的地と連絡を取って、名古屋まで帰還できることを確認した上で行動を開始する。

夏期の三股ルートは通常の降雨中でも安全と考えられる。しかし、「力水」以下のルートは沢筋のため、豪雨中・後は沢が増水・崖の崩壊などの危険があるので、高巻き退避ルートを使わざるをえない可能性がある。豪雨時にやむをえず下山する場合は、三股ルートを避けて長堀尾根ルートを使って徳沢へ下山し、日大医学部徳沢診療所へ救援を求めるのが安全と思われる。ヘリコプターが飛べない気象状態でも、徳沢までは車両を使った救援活動が可能である。積雪期(5月まで)では、三股ルートの頂上付近はトレースがなく安全なルート確認が難しい状態である。5月以前の積雪期に入山する場合には、積雪期の完全装備(ロングスパッツ、ピッケル、アイゼンなど)を整え訓練した上で長堀尾根ルートを優先的に選択する。

# 台風発生時の対応マニュアル

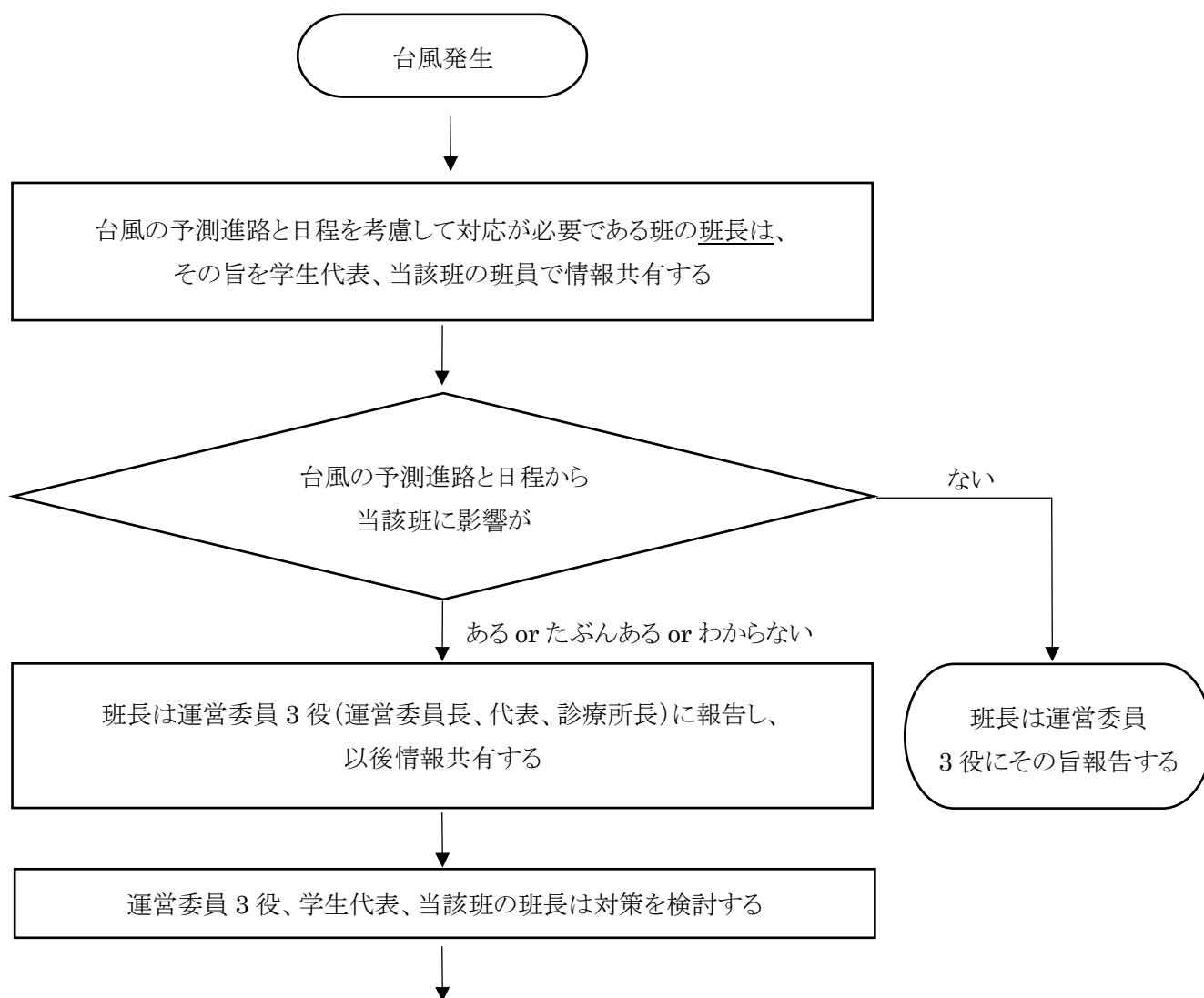
診療班代表 酒々井眞澄

2025 年度学生代表 澁谷春輝(M3)

## 【背景】

台風発生時の対応マニュアルは、診療班代表あるいは運営委員長が開所期間中に常時対応することが不可能であるという背景により作成された。このマニュアルは診療班がこれまでに行ってきた対応を分かりやすくまとめたものであり、いつ頃に、誰が、何をするのか、が記載してある。今年の台風発生時も以下のマニュアルに沿って対応が行われた。このマニュアルが安全な活動の一助となれば幸いである。

## 【台風発生時の対応マニュアル】



診療班(正規班・臨時班・学生がポーターとなる医療スタッフ班含む)の登山の延期、中止、下山を早めるなどの対策を決定する(早朝・深夜の電話会議などもあるので関係者は 24 時間連絡可能な状態で待機する)



当該班長は、当該班員全員と、当該班と期間が連続あるいは期間が重なる診療班の関係者全員(医療スタッフ班含む)に決定内容を報告する  
当該班長は、その旨現地スタッフ・事務所・中村梢様に報告する  
学生代表は全体メーリスにて診療班全体にその旨を周知する



当該班長は、登山の延期、中止、下山を早めるなどの対応を進める  
当該班長は、一時閉所チェックリストあるいは完全閉所チェックリストに従い閉所を準備する



登山の延期、中止、下山を早めるなどの対応の実施と  
診療所の一時あるいは完全閉所



学生代表は、登山の延期、中止、下山を早めるなどの対応の実施と  
診療所の一時閉所あるいは完全閉所を全体メーリスにて報告する



台風の進路に注視しながら学生代表と次の班長は、  
運営委員 3 役と台風通過後の対応を検討する



次の班長は、決定に従って移動あるいは登山準備を進める  
次の班長は、準備状況を適宜運営委員 3 役に報告する

### 【注意事項】

- ・班員の安全を最優先して行動する。
- ・台風を含む自然現象への対応は極めて難しいことがある。このマニュアルは必ずしもすべてをカバーするものではない。
- ・台風が発生した場合は、予測進路にかかわらず学生代表および当該班長は、運営委員 3 役にその旨を報告する(どのような場合も報告して情報共有する)。
- ・運営委員 3 役と連絡が取れない場合は、他の運営委員に連絡する。
- ・台風の進路を注視し、対応する必要がある場合は運営委員 3 役・班長・学生代表で情報共有する。
- ・熱帯低気圧(天気図では熱低 a などと表現される)は時間経過と共に台風に発達するため熱帯低気圧の動向にも注意する。
- ・情報共有を密にする。
- ・上記関係者は早朝や夜間でも(24 時間)連絡可能な状態で待機する。
- ・運用の状況に合わせて本マニュアルを適宜修正し、よりよいものにしていく。

### 【2025 年活動期間中の主な対応】(文責 酒々井眞澄(診療班代表))

台風 7 号、8 号および 9 号の接近に伴い学生班(2 班・3 班)および医療スタッフには登山計画の変更を指示しました。

7/24(木) 酒々井先生(診療班代表)より 3 役と当該班長へ台風 9 号の発生および台風 7 号・8 号が移動中であること、進路注視、これより 3 役、近藤(準備班班長)、澁谷(1 班班長)、伊原(2 班班長)および原田(3 班班長)は登山の中止、延期、早期下山などの検討に入る旨の指示あり、合わせて関係者は 24 時間連絡可の状態維持の指示、澁谷(学生代表・医)が対応不可の場合は杉浦(学生代表・看)が役割を引き継ぐように指示あり。

7/25(金) 3 役電話会議、準備班の早期下山、1 班の活動中止あるいは早期下山の可能性のある旨情報共有あり。合わせて関係者は 24 時間連絡可の状態維持の指示あり。

7/26(土) 3 役電話会議、酒々井先生と近藤(準備班班長)が WEB 会議(部室と診療所)、酒々井先生と澁谷(1 班班長)が対面(部室)にて会議、準備班と 1 班は当初の計画とおりの日程で行動する旨の指示あり。ただし、台風の進路を注視、局地気象に注意、早期下山や下山開始時刻を早めるなども想定して行動する旨の指示あり。必要時は 3 役に相談すること、伊原(2 班班長)は 7/28(月)昼の 12 時までには登山計画書を提出すること、班員の安全を最優先することなどが酒々井先生より指示された。

7/28(月) 酒々井先生より台風 9 号の接近に伴い 2 班(伊原班長)の活動中止あるいは日程変更の検討に入る旨の指示あり。活動中止決定の際は当該医療スタッフおよび中村梢ヒュッテオーナー様にその旨早急に連絡すること、台風進路や局地気象に注意、必要時は 3 役に相談すること、原田(3 班班長)は本日 7/28(月)午後 2 時までには登山計画書を提出すること、班員の安全を最優

先することなどが指示された。

7/29(火) 3 役電話会議およびメール会議、2 班(伊原班長)は翌日(水)に移動し須砂渡コテージにて待機指示、9 号進路をみながら翌日 7/30(水)夜までに 3 役は 7/31(木)登山可否を判断する旨情報共有あり。木曜日登山の場合は 8/1(金)の早朝に下山開始するように準備する旨指示あり。ただし、班長は班員の体力や意向も考慮すること、3 班(原田班長)は金曜日移動および登山日程を遅らせる、新たな登山日程を検討、活動中止も想定する、活動中止決定の際は当該医療スタッフおよび中村梢ヒュッテオーナー様にその旨早急に連絡する、山中では早めの行動を厳守する、台風進路や局地気象に注意、必要時は 3 役に相談すること、関係者は 24 時間連絡可の状態維持、澁谷(学生代表・医)が対応不可の場合は杉浦(学生代表・看)が役割を引き継ぐ、班員の安全を最優先するように指示あり。

7/29(火) 酒々井先生と原田班長が電話会議、3 班は 8/1(金)移動および 8/2(土)の登山を中止する。須砂渡コテージの予約はキャンセルする。3 班の日程を再スケジュールする。情報共有された。

7/30(水) 3 役電話会議およびメール会議、2 班(伊原班長)は 9 号の進路に注視しながら翌日 7/31(木)に登山し 8/1(金)の早朝に下山開始との決定があった。早川先生、大森先生も同日下山、ただし、班長は 8/1(金)の台風動向や局地気象をみながら現地判断すること。8/3(日)から 5 日(火)までの行動は要検討、原田班長は酒々井先生まで電話する旨の指示あり。

7/31(木) 酒々井先生と伊原班長(2 班)は午後 7 時 10 分より WEB 会議(部室と診療所)、同時刻に原田班長(3 班)と対面(部室)にて会議、2 班は翌日 8/1(金)に下山、早川先生、大森先生も同日下山する。診療所は一時閉所とする旨の検討があった。

8/1(金) これまでの 3 役電話会議およびメール会議での決定をうけて酒々井先生より台風の動向をみながら 3 班は 8/3(日)に移動、8/4(月)登山、8/5(火)下山する旨の指示があった。須砂渡コテージは再予約済み、原田班長は班員の体力や意向も考慮する、班員の安全を最優先することなどこれまでの指示があった。

8/1(金) 酒々井先生より熱低 a の発生について 3 役、原田(3 班班長)および高橋(4 班班長)に対して動向注視指示あり。

8/19(火) 酒々井先生より熱低 a の発生について 3 役、古田(9 班班長)、若杉(10 班班長)および久松(整理班班長)に対して動向注視指示あり。

8/21(木) 酒々井先生より台風 12 号(熱低 a より発達)の発生について 3 役、若杉(10 班班長)および久松(整理班班長)に対して動向注視指示あり。

追記 2025 年から(株)山の天気予報ヤマテンが学生向けアカウントサービス(学生プラン)を開始しました。毎年教育講演(6 月初旬に実施)でお世話になっている猪熊氏(ヤマテン CEO)より講演会の質疑応答でこの旨のアナウンスがあったのがきっかけです。これをうけて当該診療班は 2025 年 6 月より学生プランの契約(対象は 3 役、学生代表および各班長、年間契約)を行いました。関係各位におかれては本サービスを安全な活動に是非とも活かしていただければと思います。

## 上高地ルートを利用した活動報告

蝶ヶ岳ボランティア診療班  
10 班副班長 児玉奈緒 (M4)

### 【上高地ルートを利用の経緯】

2023 年に新型コロナウイルス感染症の蔓延に対する行動制限が緩和されたことに伴って、2024 年から当該診療班は上高地ルートの利用を再開した(2024 年度報告書参照)。2025 年も三股ルートおよび上高地ルートの両方に対応できる経験を積むべく、学生第 4 班および第 10 班が上高地ルートを利用した。

### 【行程】

2025 年 8 月 19 日(1 日目)

- 9:00 桜山キャンパス出発
- 11:30 ひるがの高原 SA で昼食
- 14:20 あかんだな駐車場発の上高地行きのバスへ乗車
- 14:50 上高地バスセンター到着
- 16:00 徳沢ロッジに向け出発
- 18:00 徳沢ロッジ到着、同所宿泊

2025 年 8 月 20 日(2 日目)

- 6:30 朝食(徳沢ロッジ)
  - 7:00 徳沢登山口出発
  - 10:40 長堀山山頂(2,565m)到着
  - 11:45 蝶ヶ岳ヒュッテ(山頂 2,677m)到着
- 午後より診療活動サポート

2025 年 8 月 21 日(3 日目)

終日診療活動サポート

2025 年 8 月 22 日(4 日目)

- 7:35 蝶ヶ岳ヒュッテを出発
- 8:15 長堀山山頂通過
- 10:30 徳沢到着、休憩
- 12:00 徳沢出発
- 14:00 上高地バスセンター到着
- 15:20 岐阜県高山市平湯(ひらゆの森温泉到着)

### 【徳沢ロッヂ宿泊】

1 日目は徳沢ロッヂに宿泊させていただいた。宿泊予約が遅くなってしまったにもかかわらず、古畑支配人様のご厚意により快くお引き受けいただき宿泊することができた。古畑様ならびにスタッフの皆様のご配慮に深く感謝いたします。

### 【上高地ルート選択の意義】

山岳気象においては台風の接近、天候の急変や局所的な大雨などの発生が想定される。診療班においても過去に台風接近に伴って、3 役指示により学生班が下山時に上高地ルートを利用した事例がある。また、2018 年に三股登山口へのアクセス道路が崩落しこれを利用できなくなった際に全ての学生班が上高地ルートを利用した(2018 年度報告書参照)。私たちの診療班では、班員の安全は最優先事項であり、状況に応じて代替ルートを無理なく利用できるように事前に経験することは重要である。



(いずれの写真も 2025 年 8 月撮影)

## 参加者および同伴者の宿泊経費について(2025年度)

蝶ヶ岳ボランティア診療班 運営委員長 坪井謙

コロナ禍により山小屋への宿泊者数制限や、資材等運搬用のガソリン・資材・食材の価格高騰をうけ、2022年の活動再開時から宿泊経費についてはその年度ごとに設定することとしました。宿泊場所は客室、冬季小屋、従業員用別棟などその年によって状況は異なります。2024年からは従業員用別棟に宿泊となり、かかる費用は下記のようにしました。

### 1) 学生・診療班スタッフ等(教員含む)

ヒュッテに食費として一人1食1,000円を、蝶ヶ岳ボランティア診療班から一括して活動終了後に支払います。昨年度の宿泊費1泊2,000円を免除していただきました。

### 2) 医療スタッフ等の同伴者

同伴者(ご家族等)と共に参加する場合は、一般登山客と同様にWEB予約をしていただきます。予約が取れない場合は運営委員長と相談の上対応を検討します。

### 3) テントで学生・教員・スタッフ・同伴者が宿泊する場合

A: 事前に登山計画書を担当学生に提出し入山を診療班が把握している場合には、テント代は不要です。食事をヒュッテ内で希望される場合は事前にお知らせいただき、1食1,000円の計算で、蝶ヶ岳ヒュッテに現地で現金で支払います。

B: 登山計画書の事前提出が無く、現地班長が事情を把握していない場合は、個人責任で一般登山客として一般宿泊料金を現地受付でお支払いいただき宿泊していただきます。

いずれの場合も登山計画書を事前に担当学生に提出ください。長野県の条例で登山計画書の提出は義務付けられています。水に関しては無料になりますが、診療班の腕章をつけて提供を受けてください。

# 名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療班運営組織

## 運営組織(敬称略)

診療班代表 酒々井眞澄

医師・名古屋市立大学大学院医学研究科  
神経毒性学教授

診療所長 服部友紀

医師・名古屋市立大学大学院医学研究科  
先進急性期医療学教授

運営委員長 坪井謙

医師・成田記念病院外科部長

運営委員 松嶋麻子

医師・名古屋市立大学医学部附属東部医療  
センター救急救命センター長・救急科教授

運営委員 早川智章

薬剤師・名古屋市立大学医学部附属病院  
薬剤部

特別運営委 三浦裕

医師・名古屋市立大学大学院医学研究科  
実験病態病理学・研究員 (国際認定山岳医)

森山昭彦(前診療班代表、2009～2012)

名古屋市立大学大学院理学研究科名誉教授

薊隆文(前診療所長 2013～2022)

医師・名古屋市立大学大学院看護学研究科名誉  
教授

お世話になった方々(敬称略 五十音順)

浅井清文(名古屋市立大学学長・名古屋市立大学大学院医  
学研究科名誉教授)、青木康博(名古屋市立大学大学院医  
学研究科名誉教授、法医学分野前教授)、河辺眞由美、黒  
野智恵子、土肥名月、西村恭子、野路久仁子、矢崎蓉子

## 幹事(敬称略)

酒々井眞澄 服部友紀 坪井謙 松嶋麻子 早川智章

## 歴代の診療班代表・診療所長・運営委員長の方々(敬称略)

(現職または前・元職表示)

太田伸生(元診療班代表、1998～2005)

名古屋市立大学大学院医学研究科元教授

故・武内俊彦(元診療所長、1998～2005)

名古屋市立大学大学院医学研究科名誉教授

徳留信寛(元運営委員長、1998)

名古屋市立大学大学院医学研究科公衆衛生学  
元教授

三浦裕(前運営委員長、1999～2012)

医師・名古屋市立大学大学院医学研究科実験  
病態病理学研究員

勝屋弘忠(元診療所長、2001～2006)

名古屋市立大学大学院医学研究科名誉教授

津田洋幸(元診療班代表、2006～2008)

名古屋市立大学津田特任教授研究室教授

森田明理(元診療所長、2007～2012)

名古屋市立大学大学院医学研究科加齢・環境  
皮膚科学教授

## 参加・協力 学生

M6 石川 総由	川村 芽生	前川 怜	水野 碩人
小串 聡一郎	M3 梅原 瑞希	松本 琉生	宮原 鷺太
迫 千恵音	大井 晶斗(勉)	満間 智也	森上 皓太
田淵 紗矢香	大岩 篤史(報)	山根 司	森田 統士
中川 楓美恵	大西 虹輝(情)	N2 伊藤 菜那	安田 凱
中農 七海	大橋 遼誓	蒲 咲穂	吉岡 望実
久松 脩典	奥瀬 遥香(診)	桔川 乃愛	米村 厦潤
M5 鈴木 智央里	小粥 あゆみ	桑原 和花	N1 金子 相良
高橋 航太郎	近藤 尊彦(薬)	鴻村 星奈	川浦 真央
原田 悠希	近藤 優衣(ス)	疋田 爽和	草間 美鈴
水野 太陽	重田 篤希(会)	宮崎 りの	栗本 結衣
宮永 大二郎	澁谷 春輝(学)	吉田 萌香	黒沼 小暖
若杉 大路	世古口 侑己	M1 伊藤 玲奈	中村 里緒
矢野坂 直輝	中村 瑠莉	岩澤 祐太郎	眞砂 柚子
M4 青山 葵	西原 周音	岩科 駿介	松浦 由衣
荒木 丈二	長谷川 楓馬	加藤 実	R1 別府 瑚彩
伊原 啓太	山岡 伊吹	加藤 萌	P1 阿川 怜馳
伊藤 成洋	N3 青柳 茉佑子	小林 政輝	
伊藤 佑真	杉浦 愛純(学)	下雅意 大輔	
今井 孝明	高橋 侑里	鈴木 徹平	
菊池 柁人	樋山 咲乃	多久田 真央	
小柴 拓実	弘田 萌衣	竹内 隆太郎	
児玉 奈緒	前山 にこ	竹原 壮爾	
佐藤 一輝	M2 石倉 稜埜	田中 智啓	
梶村 むつみ	今井 亮太	中西 希	
高宮 一真	奥田 琉那	新井本 和花	
武田 拓朗	加藤 奏	西澤 匠哉	
富田 翔	加藤 天志	平野 竜琉	
藤井 祐宇	加藤 初彩	福井 遥翔	
古田 優菜	當房 凌空	藤井 惇生	
細田 桃花	西脇 凜	星野 光希	
森本 理子	林 亮太郎	松井 宏志郎	
弓桁 千裕	平岡 祥多	松井 良華	
N4 榎本 乃亜	堀部 綾音	水野 翔也	

(学): 学生代表  
 (会): 会計部門長  
 (情): 情報技術部門長  
 (診): 診療環境部門長  
 (ス): スケジュール部門長  
 (勉): 勉強会部門長  
 (報): 報告書部門長  
 (薬): 薬剤部門長

M: 医学部医学科  
 N: 医学部保健医療学科  
 看護学専攻  
 R: 医学部保健医療学科  
 リハビリテーション学  
 専攻  
 P: 薬学部

## 診療班活動概要

### \* 勉強会

年間を通して毎週月曜日に、夏山での活動に備えるための勉強会を実施しています。登山に必要な知識、診療活動に必要な知識などを学んでいます。医療面接やバイタル測定、ベッドメイキング、心電図などについては実践も取り入れて練習しています。

### \* 運営委員会

毎週月曜日もしくは火曜日の昼に、三役や運営委員を交えた約30分の会議を行い診療班を運営しています。

### \* 定例会

毎週月曜日の勉強会前に定例会を行っています。ここでは診療班の活動に関する連絡事項などを部員全体に周知しています。

### \* 練習山行

4～6月に1,000m級の山を登り、夏の蝶ヶ岳登山の予行・トレーニングをします。2025年は入道ヶ岳、御在所岳、藤原岳、竜ヶ岳にて行いました。

### \* 壮行会

6月1日には壮行会を開催し診療所での活動に向けた決意表明をしました。

### \* 山岳気象講演会

6月17日に猪熊隆之先生(気象予報士、ヤマテン代表取締役、国立登山研修所専門調査委員及び講師)に蝶ヶ岳の気象特性と雲から学ぶ気象リスクについてWEB講演をしていただきました。

### \* 方針確認会議

6月29日には酒々井先生、坪井先生、服部先生、各班長(各副班長)、各部門長が対面で活動方針について情報共有や質疑応答し夏山での活動を前に診療班活動の方針や注意事項を再確認しました。

### \* OB・OG訪問

約194名のOBOGの方にご連絡し、約99名の方よりご寄付を頂きました。

### \* 診療活動

7、8月の診療所開所中は、4名の班を12班構成し、7月下旬～8月下旬の全期間診療所に入り、不足した薬剤・衛生材料の補充や予診、診察カルテの記入、バイタル測定、診察の補助を行いました。学生は基本的に24時間診療所内に常駐し、夜間でも患者さんが診察を受けられるようにしています。また、2024年から雲上セミナーを再開し、2025年も行いました。

### \* 雲上セミナー

学生が蝶ヶ岳ヒュッテで行う活動のひとつです。学生による予防的介入活動の一環として安全登山の啓発を目的にセミナーを開催しています。コロナ禍で中止していましたが、2024年に5年ぶりに再開し、2025年も行いました。

### \* 地上でのサポート(部室待機)

活動期間中、インターネットを利用して診療所の活動報告、症例報告、使用薬剤報告などを行っています。

### \* 夏山反省会

9月21日に夏山反省会を行いました。2025年の反省点や課題を挙げ、2026年に向けた対策などを検討しました。

### \* 診療所参加スタッフ数・学生数・患者数

2025年の活動同期間中の医療スタッフは27名、学生は48名、患者数は60名でした。

## 運営上の主な変更点について

### \* 決算時期について

昨年度までは長野県や松本市からの補助金申請時期に合わせて夏山診療所活動が終わり10月で会計を締めていましたが、大学からの支援金が3月締めであり、ずれが生じていたことから、今年度より年度の締めを10月から3月に変更しました。

## 診療班活動記録

2025年	1月	20日	勉強会	登山の知識、YAMAP、地名
		27日	勉強会	医療面接・バイタル連携
	2月	3日	勉強会	スライド

	7日	幹事会	酒々井先生（診療班代表）、服部先生（診療所長）、坪井先生（運営委員長）、澁谷（M3）、重田（M3）、近藤（M3）、奥瀬（M3）、近藤（M3）、大井（M3）、大岩（M3）、山岡（M3）、杉浦（N3）、加藤（M2）、林（M2）、西脇（M2）、前川（M2）、満間（M2）、堀部（M2）、平岡（M2）、奥田（M2）、吉田（N2）が出席し各部門長から活動報告と抱負が述べられた他、決算報告・予算案提示（重田）、審議・予算承認があり、それらに対する3役からのコメントがあった。
	10日	勉強会	トレーニング
	17日	勉強会	新歓の進め方
3月	3日	運営委員会	変更届、OBOG訪問の対象者、開所期間、スタッフ勧誘のポスター、メール
	10日	運営委員会	変更届、夏山フェスタ、総会、OBOG訪問の交通費、開所期間、スタッフ勧誘のポスター
	17日	運営委員会	寄付の案内文、OBOG訪問の対象者、開所期間、スタッフ勧誘ポスター
4月	7日	運営委員会	薬剤リスト、緊急バックリストの変更、開所期間
	14日	運営委員会	輸液リストの見直し、報告書の郵送
	14日	勉強会	山について、バイタル
	17日	勉強会	山について、バイタル
	22日	運営委員会	練習山行の緊急連絡網の変更、輸液リストの変更と輸液の越冬、au契約の締結、報告書の郵送
	22日	勉強会	夏山体験談・バイタル
	26日	練習山行、入道ヶ岳（標高906m）	学生44名参加、全7班構成、早川先生参加、登山隊総括責任者 加藤（M2）
	28日	運営委員会	壮行会スケジュール、輸液の越冬・使用、スマホの通信費、報告書の郵送
5月	3日	練習山行、藤原岳（標高1140m）	学生27名参加、全5班構成、浅井先生参加、登山隊総括責任者 加藤（M2）
	12日	勉強会	医療面接①
	13日	運営委員会	スタッフマニュアル改定案、夏山保険、輸液の越冬・使用
	17、18日	第11回夏山フェスタ（ウイंकあいち）	坪井先生、高橋（M5）、矢野坂（M5）、富田（M4）、澁谷（M3）、奥瀬（M3）、近藤（M3）が参加し、広報活動・募金活動を行なった。
	18、19日	ほりでーゆ・徳沢ロッジ・徳澤園・航空隊訪問	酒々井先生（診療班代表）が上高地の徳沢ロッジ・徳澤園・日本大学医学部徳沢診療所・松本空港の長野県警察本部航空隊・ほりでーゆを訪問し挨拶、活動報告、サポート体制確認
	19日	運営委員会	夏山フェスタの活動報告、5/13～5/19までの寄付者名、輸液の越冬・使用、薬剤リストの変更
	19日	勉強会	バイタル
	23日	安曇野日赤・相澤病院訪問	服部先生、早川先生が安曇野日赤病院・相澤病院を訪問し挨拶、活動報告、サポート体制確認
	23日	旅行保険契約	酒々井先生（診療班代表）、東京海上保険代理店の柴崎様、総務課の石川様、重田（M3）、長谷川（M3）が出席し、補償内容、保険料金等を確認し契約した。
	25日	ヒュッテオーナー様訪問等	酒々井先生、坪井先生、澁谷（M3）、杉浦（N3）、加藤（M2）、平岡（M2）、オーナーご自宅、須砂土キャンプ場事務所にテント一式保管依頼、三股登山口の安全登山啓発ポスター貼り換え
	25日	練習山行、御在所岳（標高1212m）	学生42名参加、全8班構成、登山隊総括責任者 加藤（M2）
	26日	運営委員会	5/20～5/26までの寄付者名、ヒュッテ募金箱の寄付金、荷揚げリスト、物品の購入、輸液の越冬・使用、スタッフ勧誘の進捗報告、荷揚げリスト、ヘリ荷揚げの日程
	26日	勉強会	薬剤①
6月	1日	壮行会（医学研究棟11階講義室B）懇親会（生協）	三役の先生方、医療スタッフ、卒業生、学生参加、酒々井代表挨拶、坪井先生のお話、診療活動活動に向けた学生代表・班長の決意表明、新聞取材対応等、終了後は懇親会を行いました。
	2日	運営委員会	夏山1班の縦走計画、寄付金ご芳名発表、予算案、引き継ぎノートの管理方法
	2日	勉強会	医療面接②
	9日	勉強会	医療面接・バイタル連携
	10日	運営委員会	夏山1班の縦走計画、準備班・中間・整理班報告、夏山反省会の日程、寄付金ご芳名発表、スタッフ勧誘の進捗報告、学生不在時用の診療所内配置図
	16日	運営委員会	夏山1班の縦走計画、寄付者ご芳名発表、学生不在時用の診療所内配置図
	16日	勉強会	薬剤②
	17日	教育講演会（Zoom）	猪熊隆之氏（気象予報士、株式会社ヤマテン代表取締役、中央大学山岳部監督）教育講演会「蝶ヶ岳の気象特性と雲から学ぶ気象リスク」

	23日	勉強会	緊急出動・危機管理体制
	29日	方針確認会議 (脳神経科学研究所5階会議室)	酒々井先生、坪井先生、服部先生、各班長(副班長)、各部門長が対面で2025年の診療活動方針について再確認、情報共有、質疑応答した。班員の安全を最優先、診療班員の役割、台風・大雨・落雷などの局所気象時、有症状者等への対応等、保険補償内容等を確認した。
	30日	運営委員会	(株)山の天気予報ヤマテンとのライセンス契約、寄付者ご芳名発表、学生用緊急バッグの内容追加、夏山班員1名の変更、物品の配置図修正版
	30日	勉強会	ベットメイキング
	30日	(株)山の天気予報ヤマテンとのライセンス契約	酒々井先生が(株)山の天気予報ヤマテン様とライセンス契約を行った。(班員20名分、2025年6月30日から2026年3月31日までの期間)
7月	7日	運営委員会	寄付者ご芳名発表、山頂募金箱のチラシ
	7日	勉強会	輸液・酸素
	14日	勉強会	症例共有会・予防的介入
	22日	運営委員会	寄付者ご芳名発表
	24日	台風9号接近への対応	酒々井先生(診療班代表)から3役と当該班長に対して台風9号の発生と進路注視の指示があった。
	25日	台風9号接近への対応	3役電話会議、準備班と1班の日程変更を検討開始した。
	26日	台風9号接近への対応	3役電話会議、酒々井先生と近藤(準備班班長)がWEB会議(部室と診療所)、酒々井先生と澁谷(1班班長)が対面で会議(部室)、準備班と1班は計画とおりの日程で行動する旨の指示があった。
	28日	台風9号接近への対応	酒々井先生より2班(伊原班長)の活動中止あるいは日程変更の検討に入る旨の連絡があった。
	29日	台風9号接近への対応	3役電話会議およびメール会議、3役は2班の日程変更(7/31登山し8/1下山する案)の可否を7/30夜までに行う旨の連絡があった。
	30日	台風9号接近への対応	3役電話会議およびメール会議、2班の日程変更を決定した。
	31日	台風9号接近への対応	酒々井先生と伊原班長(2班)は夜にWEB会議(部室と診療所)、同時刻に原田班長(3班)と対面(部室)にて会議、2班は8/1(金)に下山し診療所は一時閉所とすることを検討した。
8月	1日	台風9号接近への対応	酒々井先生より台風の動向をみながら3班は8/3(日)に移動、8/4(月)登山、8/5(火)下山する旨の指示があった。
	1日	準備班報告	準備班班長近藤(M3)より活動報告
	1日	熱帯低気圧(熱低a)への注意喚起	酒々井先生(診療班代表)より3役と当該班長(3班と4班)に対して熱帯低気圧の発生および動向注視の注意喚起があった。
	11日	症例検討会	午後8時より診療所研修医を対象に3役との症例検討会を行った。
	12日	症例検討会	午後8時より診療所研修医を対象に3役との症例検討会を行った。
	16日	症例検討会	午後8時より診療所研修医を対象に3役との症例検討会を行った。
	18日	中間報告	5班副班長武田(M4)より活動報告
	19日	熱帯低気圧(熱低a)への注意喚起	酒々井先生(診療班代表)より3役と当該班長(9班、10班および整理班)に対して熱帯低気圧(後の台風12号)の発生および動向注視の注意喚起があった。
	21日	台風12号接近への注意喚起	酒々井先生(診療班代表)より3役と当該班長(10班および整理班)に対して台風12号の発生および動向注視の注意喚起があった。
9月	1日	整理班報告	整理班班長久松(M6)より活動報告
	21日	反省会(講義棟5階講義室3)	酒々井先生、服部先生、坪井先生、早川先生(薬剤部)、石川先生(OB)、榊原先生(OB)、鬼頭先生(OB)、青木先生(OB)、竹内先生(OB)、学生が参加、学生間で今夏の活動振り返り、今後の対策などについて討論、三役や出席者からご意見を伺った。
	29日	勉強会	夏山体験談
10月	6日	勉強会	症例別対処(高山病、虫刺症)
	20日	勉強会	患者さん対応総復習
	27日	勉強会	薬剤発展
11月	2日	医学部同窓会瑞友会総会(ANAクラウンプラザホテルグランドコート名古屋)	酒々井先生(診療班代表)、原田(M5)・重田(M3)・杉浦(N3)・加藤初(M2)・堀部(M2)・吉田(N2)・岩科(M1)・新井本(M1)・鈴木(M1)・西澤(M1)・福井(M1)・多久田(M1)・水野碩(M1)・吉岡(M1)・伊藤(M1)・田中(M1)が出席、松本隆会長への挨拶、助成金目録贈呈式にて重田がお礼を述べて目録を受け取りました。
	10日	勉強会	テントの立て方
	17日	勉強会	山頂報告・メールの書き方
12月	1日	勉強会	心電図

7日	名古屋市立大学医学会総会 (研究棟11階講義室A)	澁谷 (M3) が「2025年名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療班の活動報告」を発表、座長は酒々井眞澄先生 (診療班代表) が務めました。
8日	勉強会	外傷の処置・テーピング
15日	勉強会	卒業生勉強会

#### 診療録閲覧申請をした部門と日付及び目的

日付	部門	目的
2025年4月5日	勉強会部門*	勉強会資料作成
2025年8月18日	勉強会部門*	勉強会資料作成

\*勉強会部門医学部3年大井晶斗が責任者として診療録閲覧申請を行った。

## 診療所でのネットワーク障害とその対応

蝶ヶ岳ボランティア診療班

2025 年度情報技術部門長 大西虹輝 (M3)

### 【テザリングについて】

2025 年は試験的に導入したテザリング用スマートフォン周りの使い方やルールを整備し部員山頂マニュアル 2025 に明記した。具体的にはデータ使用量の見方やスマートフォンを使う上での諸注意である。診療所内のテザリングのアクセスポイントとしての役割だけでなく、現地のスマートフォンとして緊急時の連絡手段としても利用することができる。

### 【テザリング用スマートフォン】

会社 : au

機種 : Redmi12 5G 4GB/128GB モデル

使用期間 : 6 月 30 日～9 月 30 日

サイズ : 6.8 インチ、約 200g

ストレージ : 128GB

メモリ : 4G

テザリング容量 : 60GB

金額 : 26,823 円

### 【Discord について】

昨年同様に、診療所・部室間の連絡手段として Discord を活用した。サーバーやチャンネルの機能を使って用途ごとにトークルームを分けることで、Discord では診療所・部室間の一般的なやりとりだけでなく、任意の班への引き継ぎ事項を記録したり、薬剤・会計部門への連絡事項を伝えたりすることができる。これらにより膨大な連絡事項を分かりやすく、また発見しやすくすることができた。

### 【まとめ】

テザリング用スマホと Discord の活用によって今年度は特にネットワーク障害等無く円滑に夏山活動をすすめることができた。テザリング容量も昨年の 2 倍の 60GB となり安定した通信環境の維持に役立った。2026 年度以降も同様の対応を継続する方針であるが、よりシンプルに Discord を使えるように細かなところを刷新していきたい。

## 2025年度 会計収支決算報告

2025年度(2025年4月1日～2026年3月31日)蝶ヶ岳ボランティア診療班の収支決算は以下の通りになりましたので報告いたします。

第28期会計: 重田篤希

収入の部		支出の部 (内R7年度大学支援金)		
前年度繰越金	5,522,846	医薬品費	56,301	
		診療用備品費	214,586	98,326
寄付(夏山フェスタ寄付含む)	1,037,070	診療用消耗品費	34,572	18,480
山頂募金箱	134,429	部室備品費	142,007	18,009
		一般消耗品費	23,523	
		自炊用品費	0	
大学からの支援金 (2025.4.1～2026.3.31)	202,000	山用品費	0	
瑞友会(名古屋市立大学同窓会)	100,000	旅行保険料	67,185	67,185
松本市山岳診療所報償費	200,000	通信・運搬費	66,900	
長野県山岳遭難防止対策協会	60,000	ヒュッテ食費	449,650	
		運営活動費	9,423	
医学会	200,000	報告書印刷・掲載費	162,250	
銀行利息	1,524	学術活動費	87,905	
積立金(PC代)	0	積立金	0	
(年度内合計)	1,935,023	(年度内合計)	1,314,302	202,000
		(年度内差損)	620,721	
		次年度繰越	6,143,567	0

備考)

- 1.寄付
- 2.診療用備品費
- 3.診療用消耗品費
- 4.部室備品費
- 5.一般消耗品費
- 6.旅行保険料
- 7.通信・運搬費
- 8.運営活動費
- 9.学術活動費

OB・OGからいただいたご寄付は、学生・医療スタッフの食費に使わせていただく酸素ボンベやデスク、ベッド等診療の際に必要な備品代  
乾電池等、診療所内にある消耗品代  
部室PC、プリンター、スキャナー、血圧計等の代金  
ハガキ代等  
医療スタッフ・学生が加入する旅行保険料金(参加者全員分を診療班が負担し  
部室の電話代・ヘリ荷揚げ物品の配送料金  
OB・OG訪問等の交通費等  
猪熊氏の講演会謝金およびヤマテンライセンス代

### 2025年度 会計監査報告

2026年4月27日、会計帳簿、現金、領収書などの監査を行い、決算報告書に誤りのないことを確認しました。

第28期会計監査: 名古屋市立大学大学院看護学研究科  
看護国際推進センター教授

鄭且均 

## スタッフ派遣日程表

開所期間:2024年7月24日(水)～8月19日(月)

日程	学生		医師	看護師	薬剤師/理学療法士
7/19(土)			酒々井眞澄		
7/20(日)			酒々井眞澄		
7/25(金)	準備班		榊原嘉彦		
7/26(土)	準備班		榊原嘉彦		
7/27(日)	準備班		榊原嘉彦/浅井清文		
7/28(月)	準備班	1班	浅井清文		
7/29(火)		1班	浅井清文		
7/30(水)		1班	浅井清文/早川純午		
7/31(木)	2班	1班	早川純午/大森久紀		
8/1(金)	2班		早川純午/大森久紀		
8/2(土)					
8/3(日)					
8/4(月)		3班	田中秀和/木村颯花		
8/5(火)	4班	3班	田中秀和/木村颯花/ 青木康博		
8/6(水)	4班		青木康博		
8/7(木)	4班		青木康博/日置啓介	日高理彩	
8/8(金)	4班	5班	青木康博/日置啓介	日高理彩	
8/9(土)		5班	日置啓介/佐々木謙	日高理彩/鈴木美帆	
8/10(日)		5班	佐々木謙	鈴木美帆	
8/11(月)	6班	5班	佐々木謙/西山真由	鈴木美帆/酒井田正克	
8/12(火)	6班		西山真由	酒井田正克	
8/13(水)	6班	7班	西山真由/浅井清文	酒井田正克/山田有一郎	
8/14(木)		7班	浅井清文/竹内智洋	山田有一郎	
8/15(金)	8班	7班	竹内智洋/井手上駿	山田有一郎	
8/16(土)	8班		竹内智洋/井手上駿		桜井春香(理)
8/17(日)	8班		井手上駿/宇佐美琢也		桜井春香(理)
8/18(月)	8班	9班	安東知里/宇佐美琢也		
8/19(火)		9班	安東知里/服部友紀/ 宇佐美琢也		早川智章(薬)
8/20(水)	10班	9班	服部友紀		早川智章(薬)
8/21(木)	10班		服部友紀/小濱和貴/ 高山悟/中村太亮		早川智章(薬)
8/22(金)	10班	整理班	小濱和貴/畑中景/ 高山悟/中村太亮		
8/23(土)		整理班	畑中景		
8/24(日)		整理班	畑中景/坪井謙		
8/25(月)		整理班	畑中景/坪井謙		

- ・台風9号接近に伴い、早川純午医師、大森久紀医師は下山を1日早めました。
- ・台風9号接近に伴い、田中秀和医師、木村颯花医師は登山を2日遅らせました。

## 学生登山隊日程表

班	日程	リーダー	サブリーダー	班員	班員
準備班	7/25~7/28	M3 近藤優衣	M3 重田篤希	M3 中村瑠莉	M3 近藤尊彦
1班	7/28~7/31	M3 澁谷春輝	M3 奥瀬遥香	M3 大岩篤史	M3 西原周音
2班	7/31~8/2	M4 伊原啓太	M4 梶村むつみ	M2 加藤初彩	M2 満間智也
3班	8/2~8/5	M5 原田悠希	N4 榎本乃亜	M4 荒木丈二	M2 堀部綾音
4班	8/5~8/8	M5 高橋航太郎	M4 伊藤成洋	M4 伊藤佑真	M3 世古口侑己
5班	8/8~8/11	M5 鈴木智央里	M4 武田拓朗	N2 吉田萌香	M1 藤井惇生
6班	8/11~8/13	M6 石川総由	M3 山岡伊吹	N3 前山にこ	N1 金子相良
7班	8/13~8/15	M5 水野太陽	M4 今井孝明	N3 杉浦愛純	N1 栗本結衣
8班	8/15~8/18	M4 藤井祐宇	M4 細田桃花	N3 高橋侑里	M1 岩澤佑太郎
9班	8/18~8/20	M4 古田優菜	M5 宮永大二郎	M3 大橋遼誓	M1 多久田真央
10班	8/20~8/22	M5 若杉大路	M4 児玉奈緒	N3 樋山咲乃	M1 小林政輝
整理班	8/22~8/25	M6 久松脩典	M3 近藤尊彦	M1 西澤匠哉	M1 鈴木徹平

- ・台風9号接近に伴い、学生第2班は下山を1日早めました。
- ・台風9号接近に伴い、学生第3班は登山を2日遅らせました。



診療所内の写真(酒々井眞澄代表提供, 2023年撮影)

問診用カルテ(学生用カルテ)

ふりがな  
**氏名** \_\_\_\_\_様 性別 男・女  
 生年月日 大正・昭和・平成\_\_\_\_\_年 \_\_\_\_\_月 \_\_\_\_\_日 \_\_\_\_\_歳  
 本日の宿泊先……テント場 / ヒュッテ内(部屋名 \_\_\_\_\_)  
 住所  
 (〒 \_\_\_\_\_ )  
 身長 \_\_\_\_\_cm 体重 \_\_\_\_\_kg 職業\_\_\_\_\_

**記載者** \_\_\_\_\_

**来診日時** \_\_\_\_\_月 \_\_\_\_\_日  
 \_\_\_\_\_時 \_\_\_\_\_分 (24時間表記)

備考/使用薬剤・衛生材料

**主訴**

**現病歴**

**アレルギー**

(薬物・食物・金属等) \_\_\_\_\_  
 (アルコールアレルギー) 有・無 \_\_\_\_\_

**服薬歴**

**既往歴**

(高山病・登山中の外傷など) \_\_\_\_\_  
 (手術歴・健診の結果) \_\_\_\_\_

**生活習慣**

喫煙 \_\_\_\_\_本/日 \_\_\_\_\_年 飲酒 \_\_\_\_\_/日  
 登山歴\_\_\_\_\_年 1年に\_\_\_\_\_回 週に( )日程度運動する

★ **AMSスコア**

頭痛	消化器	疲労感	めまい	計	意識	歩行テスト	浮腫	計	総計

★ **行動歴**

前日の睡眠 \_\_\_\_\_時間

入山\_\_\_\_\_日目/全行程\_\_\_\_\_日

時刻	場所
例:7:00	三俣登山口 出発

登山時間\_\_\_\_\_時間

今後の予定 下山/縦走( \_\_\_\_\_方面)

下山予定時刻( : )

水分量 \_\_\_\_\_mL ( )  
 \_\_\_\_\_mL ( )

食欲/食事

飲酒状況 排便/排尿

名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療班カルテ No. \_\_\_\_\_ -

診察用カルテ (医師用カルテ)

※学生不在時であっても、問診用カルテの患者の個人情報、★マークのある所は埋めてください。

現病歴および身体所見 <sup>ふりがな</sup>患者氏名 \_\_\_\_\_

診断名 \_\_\_\_\_

処置・処方等

薬剤等の準備者 \_\_\_\_\_ 調製者 \_\_\_\_\_ 医師確認  (レ点記入)

(使用薬剤、衛生材料を記載、医師の処方後に準備者と調製者はサインを記入、医師のチェックを受けてください)

検査結果 時刻 \_\_\_\_\_時 \_\_\_\_\_分 \_\_\_\_\_分  
 O<sub>2</sub> 投与流量…………… \_\_\_\_\_(L/min) \_\_\_\_\_(L/min) \_\_\_\_\_(L/min)  
 O<sub>2</sub> 投与時間…………… \_\_\_\_\_分 \_\_\_\_\_分 \_\_\_\_\_分

転帰

医師名(サイン) \_\_\_\_\_

<b>Vital sign</b>	____時____分 ( )	<b>尿検査</b>	____時____分 ( )
SpO <sub>2</sub> (%)		白血球	
脈拍数 (回/分)		ウロビリノーゲン	
血圧 (mmHg)	/	蛋白質	
体温 (°C)		pH	
呼吸数 (回/分)		潜血	
		比重	
<b>血糖検査</b>	____時____分 ( )	ケトン体	
血糖値(mg/dL)		ブドウ糖	

名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療班カルテ No. \_\_\_\_\_

学生不在時用 医師用カルテ

ふりがな

氏名 \_\_\_\_\_様 性別 男・女

生年月日 大正・昭和・平成 \_\_\_\_\_年 \_\_\_\_\_月 \_\_\_\_\_日 \_\_\_\_\_歳

本日の宿泊先……テント場 / ヒュッテ内(部屋名 \_\_\_\_\_)

住所

(〒 \_\_\_\_\_)

身長 \_\_\_\_\_cm 体重 \_\_\_\_\_kg 職業 \_\_\_\_\_

来診日時 \_\_\_\_\_月 \_\_\_\_\_日  
 \_\_\_\_\_時 \_\_\_\_\_分

現病歴および身体所見

入山 \_\_\_\_\_日目 / 全行程 \_\_\_\_\_日

時刻	場所
例:7:00	三俣登山口 出発

登山時間 \_\_\_\_\_時間

今後の予定 下山 / 縦走 ( \_\_\_\_\_ 方面)

下山予定時刻 ( : )

水分量 \_\_\_\_\_mL ( )  
 \_\_\_\_\_mL ( )

AMS スコア

頭痛	消化器	疲労感	めまい	計	意識	歩行テスト	浮腫	計	総計

学生不在時用 医師用カルテ  
処置・処方等

薬剤等の準備者 \_\_\_\_\_ 調製者 \_\_\_\_\_ 医師確認  (レ点記入)

(使用薬剤、衛生材料を記載、医師の処方後に準備者と調製者はサインを記入、医師のチェックを受けてください)

検査結果 時刻 \_\_\_\_\_時 \_\_\_\_\_分 \_\_\_\_\_時 \_\_\_\_\_分 \_\_\_\_\_時 \_\_\_\_\_分

SpO<sub>2</sub> (%) …………… \_\_\_\_\_

O<sub>2</sub> 投与流量 …… \_\_\_\_\_ (L/min) \_\_\_\_\_ (L/min) \_\_\_\_\_ (L/min)

O<sub>2</sub> 投与時間 …… \_\_\_\_\_分 \_\_\_\_\_分 \_\_\_\_\_分

転帰 \_\_\_\_\_

診断名 \_\_\_\_\_

医師名(サイン) \_\_\_\_\_

<b>Vital sign</b>	_____時_____分 ( )
SpO <sub>2</sub> (%)	
脈拍数 (回/分)	
血圧 (mmHg)	/
体温 (°C)	
呼吸数 (回/分)	

<b>血糖検査</b>	_____時_____分 ( )
血糖値(mg/dL)	

<b>尿検査</b>	_____時_____分 ( )
白血球	
ウロビリノーゲン	
蛋白質	
pH	
潜血	
比重	
ケトン体	
ブドウ糖	

診察前の体調確認表

1	熱（37.5℃以上）がある、または、平熱より高い熱がある 体温（      ℃）	
2	のどの痛みや鼻水、たんがある	
3	咳や息苦しさがある	
4	においや味を感じにくい	
5	体のだるさがある	
6	体に発疹がある	
7	下痢または嘔吐の症状がある	
8	目の赤みや異物感（ゴロゴロした感じ）がある	
9	14日以内に海外への渡航歴がある、または、移住していた 渡航国（                      ）	
10	14日以内に新型コロナウイルス感染症の陽性者との接触歴がある	

上記1～10に該当なし

## 2025年の診療所開所に向けた各部門の準備、活動後の反省と対策

学生代表 澁谷春輝(M3)

5月25日(日)に酒々井先生、坪井先生、澁谷(学生代表)、杉浦(看護代表)、加藤(M2)、平岡(M2)で蝶ヶ岳ヒュッテオーナー様、ほりで一ゆ様、須砂渡キャンプ場管理人様に活動報告・挨拶、テント一式保管依頼、その後三股登山口にて予防的介入ポスターを張り替えました。6月1日(日)に三役の先生方、卒業生、医療スタッフ、学生が参加し、壮行会を行いました。6月29日(日)に三役の先生方と各班長・副班長、各部門長など学生25名が対面で方針確認会議を実施、「安全な活動」という診療班の最重要ポリシーのもと遵守事項を再確認しました。

2023年5月8日に新型コロナウイルス感染症が2類相当から5類へ変更されたことに伴い本学学生課の規定も改訂されたことから、医療スタッフ向けスタッフマニュアル、学生向け参加のしおり、診療活動における感染対策のマニュアル等をアップデートしました。運営会議・学外協力施設等訪問のスケジュール調整と手土産の手配、学生が活動に参加するにあたって必要な書類等の準備と学生課への提出など運営面での活動を行いました。加えて、6月17日(火)猪熊氏講演会スケジュール調整・実施、11月2日(日)医学部同窓会瑞友会総会にて松本隆会長への挨拶(酒々井先生、杉浦、重田(会計部門長)、原田、加藤、吉田、堀部、岩科、新井本、鈴木、西澤、福井、多久田、吉岡、水野、伊藤、田中が参加)、助成金目録贈呈式に参加、12月7日(日)名市大医学会総会での活動報告(発表者澁谷、座長酒々井先生)などがあります。

会計部門 重田篤希(M3)

必要物品・報告書の費用の概算と各種支払い、活動時に加入する旅行損害保険への加入手続きと支払い、診療所内でご寄付を頂いた方、OBOG訪問でご寄付を頂いた方、電子領収書の準備、OBOG訪問で頂いた寄付金の管理、診療所の公衆電話で使用する小銭の準備を行いました。また、2026年に向けた予算の立案、決算書の作成と監査の実施、酒々井先生との打ち合わせなどを行いました。従来の会計年度は11月1日から10月31日でしたが、大学支援金の処理期間に合わせて2025年より会計年度を4月1日から3月31日としました。

学生が診療サポート活動中に患者様に損害を及ぼしてしまった際の賠償金は以前までは、大学入学時に加入していた学研災の保険で賄われるとの認識でした。しかし、当該保険についての大学HPにおける説明文にはクラブ・サークル活動は対象外となりますとの一文があることが判明しました。これについて、蝶ヶ岳ボランティア診療班における診療活動がこれに該当するのか学生課を介して保険会社様に問い合わせを行いました。保険会社より、蝶ヶ岳における診療サポート活動も保険の補償対象内であるとのことご回答をいただいたため、今までと同様に入学時の学研災保険で賄われます。ただし、学研災保険の加入の有無は学生個人の責任において確認する必要があります。

医療スタッフの食費管理が 2025 年から会計部門の管轄となり、食事回数のカウントなどを行いました。記入形式など問題点もいくつか判明したため反省会でいただいたご意見を活かし改善するように引き継ぎます。

#### 薬剤部門長 近藤尊彦(M3)

薬剤と衛生材料について、附属病院薬剤部の早川先生(運営委員)と相談し、6 月中に発注点、荷上げ数を決定、この旨運営会議に報告し了承されたため、ヘリ荷上げ、歩荷により荷揚げを行いました。医薬品集を改訂しました。7 月に医療スタッフ向けに学生不在時の薬剤管理マニュアルを作成しました。期限切れの薬剤・衛生材料を閉所までに歩荷で荷下げし使用可能薬剤リストをアップデートしました。

感染性廃棄物について、6 月に名古屋市に 2025 年の医療廃棄物処理状況を報告、医療廃棄物処理の委託先(中部メディカル有限会社)へ段ボール等を発注、7 月に中部メディカル有限会社と契約、8 月に医療廃棄物の取り扱いについて医療スタッフへ周知、医療廃棄物を受け取り、中部メディカル有限会社へ廃棄物を受け渡し、その旨名古屋市へ報告しました。開所期間中に薬剤・衛生材料のリスト記載在庫数と診療所で学生が実際にカウントして確認した数との間に数値の不一致が頻発したため、2026 年は薬剤部門が在庫の数え方やリストの更新方法、薬剤・衛生材料の配置などの管理システムを改訂します。

#### 診療環境部門長 奥瀬遥香(M3)

5 月にヘリ荷揚げリスト作成を開始し、不足物品の購入や荷揚げ物品の準備を行いました。テントで前泊する班には寝袋やテントの準備や確認を指示しました。部員山頂マニュアルや部室待機マニュアル等について適宜アップデートしました。従来通り、参加者アンケートは紙と Google フォームの両方で行いました。6 月上旬にカルテや予防的介入カード等の印刷を行いました。ヘリ荷揚げ物品の詳細はヒュッテオーナー様と相談、最終的に 6 月中旬にヘリ荷揚げを行いました。また、6 月中旬より、診療所内の薬剤配置図の作成を行いました。

毛布、シーツ等の交換基準がわかりづらいという意見が出たため、来年度以降は部員山頂マニュアルに明確に記載します。登山者に診療所の存在を知ってもらいやすくするため、学生班員はパルスオキシメーターを携帯し声かけのタイミングで SpO<sub>2</sub> 測定を計画しています。

#### スケジュール部門長 近藤優衣(M3)

3 月に OBOG に連絡先等の変更についてアンケートを行って名簿を更新し、開所期間を決定しました。4 月に OBOG 訪問実施の周知と訪問する学生の割り振りをして、OBOG 訪問を行いました。5 月に医療スタッフの夏山参加受付の開始、学生向け夏山参加希望アンケート、日程調整を行いました。6 月に診療所開所期間中の部室待機学生を割り当てました。開所期間中は、診療活動進行状況を随時確認しました。また、運営委員会やメールにて人員配置や新規参加者等の現状について三役の先生方に随時報告・検討しました。

皆様のご協力により、医師不在期間なく活動することができました。研修医のみの期間では、3 役の先生方との zoom による症例検討会を行っていただきました。

#### 情報技術部門長 大西虹輝(M3)

テザリング用スマホを携帯会社と契約し診療所部室間の安定したネットワーク環境を整えました。チャット・通話の際に Discord を利用し、サーバーやチャンネルを分けることで任意の班への引き継ぎ、会計処理、薬剤在庫管理の連絡を包括的に管理しました。PC、テザリング用スマホを事前に動作確認しました。開所時期や夏山班、医療スタッフが決まり次第適宜ホームページのアップデートを行いました。ファイルの共有には OneDrive を使用し総合情報だけでなく、勉強会の内容や各マニュアル、雲上セミナー用のファイル等も共有できるようにしました。診療所においては概ね不自由なく診療活動ができました。

トランシーバーが比較的近い距離でも使用できないとの報告がありましたので、運営会議への提案・承認を経て新たに 2 台購入しました。メールの受信にタイムラグが発生している事案も報告されており、原因を突き止めて時間だけでなく日付の報告も明記することで対策します。

#### 勉強会部門長 大井晶斗(M3)

診療サポート活動に参加する学生として必要な知識を学べるように勉強会の内容を決め、一年を通して毎週月曜日業後に勉強会を継続しました。内容は登山に必要な知識や医療面接・バイタルサイン測定、薬剤カウント、メールの書き方など多岐にわたります。医療面接やバイタルサイン測定については実践的な練習を行いました。

2026 年に導入した出席管理システムを診療所活動参加者選抜の基準とできるように内容を精査すること、診療所活動に参加しない学生が自主的に医療面接・バイタル演習に参加できるシステムを 2026 年 4 月までに構築します。

#### 報告書部門長 大岩篤史(M3)

6 月下旬に診療所で用いる名札の整理と新規作成、9 月初旬に「2025 年度報告書」の編集を開始しました。掲載内容の整理と目次決定、原稿依頼と集約、編集部でのドラフト原稿チェック、酒々井先生との打ち合わせ、ドラフト原稿修正、初稿入稿、校正を行った後、2025 年度報告書は 200 部発注します。例年との違いとして、2025 年から会計年度が 10 月から 3 月に変更されたため、報告書の発行時期が 5 月になります。昨年と同様、寄付者へ報告書の郵送を行います。また、報告書は部室・名市大医学会事務局(学友会館 2 階)・名市大医学部同窓会瑞友会事務局(学友会館 2 階)、酒々井先生の研究室等に必要部数を配布しました。

## 診療記録

No.	日付	性別	年齢	診断名	使用薬剤・衛生材料
25-001	7月27日	男	50歳	急性高山病	ロキソプロフェン錠60mg1錠、ドンペリドン錠10mg1錠、アルウエット1枚
25-002	7月28日	男	42歳	急性高山病	ロキソプロフェン錠60mg2錠、市販マスク(ウイルスカット)1枚、アルウエット1枚
25-003	7月28日	女	62歳	急性高山病	アルウエット1枚
25-004	7月28日	女	69歳	脱水症、疲労、低血圧、不整脈	ブドウ糖注50%(20mL)1本、ウロラプスティックス、ソルアセット輸液500mL1本、ハルンカップ、テルモシリンジ(20mL)1本、テルフェーション三方活栓1本、サフィード延長チューブ1本、JMS輸液セット、電極用クリーム、優肌パーミロール、ニトリル手袋M、アルウエット15枚、サーフロー針(22G)3本、ノンスリップシート、ホワイトテープ25mm、膿盆にかける袋2枚
25-005	7月28日	男	78歳	脱水症疑い	アルウエット1枚
25-006	7月29日	男	61歳	筋疲労	ロキソプロフェン錠60mg2錠、アルウエット1枚
25-007	7月29日	男	51歳	右内転筋筋肉痛	ロキソプロフェン錠60mg2錠、セルタッチテープ2枚、アルウエット2枚
25-008	7月30日	女	59歳	急性高山病、上気道炎(疑い)	コロナール錠300mg2錠、ドンペリドン錠10mg2錠、アルウエット1枚、膿盆にかける袋1枚
25-009	7月30日	女	76歳	胃腸障害(自律神経障害)	ドンペリドン錠10mg1錠、ネキシウムカプセル20mg1錠、ソルアセット輸液500mL1本、JMS輸液セット、アルウエット2枚、サーフロー針(22G)1本、膿盆にかける袋1枚
25-010	7月30日	男	71歳	両大腿筋クランプ	ロキソプロフェン錠60mg2錠
25-011	7月31日	女	51歳	軽症高山病	アルウエット1枚
25-012	7月31日	女	70歳	不明	アルウエット1枚
25-013	8月4日	女	62歳	高山病疑い	コロナール錠300mg1錠、ドンペリドン10mg1錠、アルウエット1枚
25-014	8月4日	男	24歳	高山病疑い	ドンペリドン錠10mg2錠、アルウエット1枚
25-015	8月4日	男	13歳	高山病疑い	コロナール錠300mg2錠、アルウエット1枚
25-016	8月5日	男	67歳	虫刺症疑い	リンデロンVG軟膏0.12%、優肌パーミロール、アルウエット1枚、綿棒
25-017	8月5日	男	64歳	右足関節捻挫(外側部靭帯損傷)	アルウエット1枚
25-018	8月5日	女	54歳	左示指切創	ゲンタシン軟膏0.1%
25-019-1	8月5日	男	51歳	靴擦れ	アルウエット1枚
25-019-2	8月6日			靴擦れ	テーピング(非伸縮性)、滅菌メディガーゼ(8つ切り)2枚
25-019-3	8月10日			靴擦れ	生理食塩水100mL1本、ゲンタシン軟膏0.1%、テーピング(伸縮性)、滅菌メディガーゼ(8つ折り)1枚、優肌パーミロール、ニトリル手袋M、アルウエット1枚、注射針(18G)1本
25-020	8月8日	女	34歳	急性高山病	ドンペリドン錠10mg1錠、アルウエット1枚
25-021	8月9日	女	61歳	両側下腿打撲傷/内出血	アルウエット1枚
25-022	8月9日	女	55歳	左外側膝関節炎	
25-023	8月9日	女	25歳	AMS(軽症)	アルウエット1枚、ドンペリドン錠10mg2錠
25-024	8月12日	男	57歳	両下腿挫傷、右膝打撲傷	ゲンタシン軟膏0.1%、滅菌メディガーゼ(8つ折り)1枚、アルウエット1枚
25-025 (25-019-4)	8月13日	男	51歳	右足背挫傷	生理食塩水100mL1本、ゲンタシン軟膏0.1%、テーピング(伸縮性)、滅菌メディガーゼ(8つ折り)1枚、ニトリル手袋M、注射針(18G)1本、ホワイトテープ12mm、綿棒、膿盆にかける袋1枚
25-026	8月14日	女	不明	AMS	アルウエット1枚
25-027	8月14日	男	71歳	右踵褥瘡II度(靴擦れ)	ゲンタシン軟膏0.1%、テーピング(伸縮性)、滅菌メディガーゼ(8つ折り)、スワブスティック、アルウエット1枚、ホワイトテープ25mm
25-028	8月14日	男	49歳	脱水症、軽度熱中症	ウロラプスティックス、ハルンカップ、アルウエット2枚
25-029	8月15日	女	52歳	AMS	ロキソプロフェン錠60mg1錠、ドンペリドン錠10mg1錠、アルウエット1枚
25-030	8月16日	女	32歳	急性高山病の疑い	コロナール錠300mg1錠、アルウエット1枚、市販マスク(ウイルスカット)4枚
25-031	8月16日	男	38歳	脱水症、急性高山病の疑い	プリンペラン注射液10mg1アンプル、ソルアセット輸液500mL3本、ウロラプスティックス、ハルンカップ、フェースマスク酸素マスク1個、注射針(21G)1本、テルモシリンジ(10ml)1本、テルフェーション三方活栓1本、サフィード延長チューブ1本、JMS輸液セット、尿器男性用、アルウエット2枚、サーフロー針(22G)1本、オキシジェンカニューレ1本、ノンスリップシート、市販マスク(ウイルスカット)1枚
25-032	8月16日	男	57歳	右膝・右肘擦過傷、左上腕打撲	セルタッチテープ1枚、ハルンカップ、ニトリル手袋M2組、アルウエット1枚、市販マスク(ウイルスカット)1枚
25-033	8月17日	男	36歳	軽度打撲傷	
25-034	8月17日	男	44歳	左肩挫傷	ロキソプロフェン錠60mg1錠、セルタッチテープ1枚、アルウエット1枚
25-035	8月17日	男	65歳	左右内側足底神経炎、腸脛靭帯炎	アルウエット2枚、市販マスク(ウイルスカット)1枚

25-036	8月17日	女	63歳	AMS	ブドウ糖注50%(20mL)1本、ウロラプスティックス、ハルンカップ、テルモシリンジ(20ml)1本、テルフェージョン三方活栓1本、サフィード延長チューブ1本、JMS輸液セット、優肌バーミロール、アルウエッティ1枚、サーフロー針(22G)1本、オキシジェンカニューレ1本、ノンスリップシート
25-037	8月18日	男	34歳	左腸脛靭帯炎	ロキソプロフェン錠60mg1錠
25-038	8月18日	女	63歳	急性高山病、脱水症	ブドウ糖注50%(20mL)2本、ソラセット輸液500mL2本、テルモシリンジ(20ml)1本、アルウエッティ6枚、注射針(18G)1本、サーフロー針(22G)2本、ヘキシジン4個
25-039	8月18日	女	64歳	両外耳日光皮膚炎	ゲンタシン軟膏0.1%、滅菌メディガーゼ(8つ折り)、アルウエッティ1枚、綿棒1本
25-040	8月18日	男	64歳	左手挫傷	ゲンタシン軟膏0.1%、滅菌メディガーゼ(8つ折り)、優肌バーミロール、ホワイトテープ12mm
25-041	8月18日	女	67歳	右股関節挫傷	ロキソプロフェン錠60mg1錠、アルウエッティ1枚
25-042	8月18日	女	43歳	緊張型頭痛	
25-043	8月18日	女	26歳	右第3趾爪甲剝離症	テーピング(伸縮性)、アルウエッティ1枚
25-044	8月18日	男	53歳	右膝挫傷	セルタッチテープ1枚
25-045	8月21日	女	50歳	便秘症	ドンパリドン錠10mg1錠、アルウエッティ2枚
25-046	8月21日	女	34歳	左足関節挫傷、左腕部打撲	カロナール錠300mg4錠、セルタッチテープ1枚
25-047	8月22日	女	60歳	高山病の疑い	アルウエッティ1枚
25-048	8月22日	男	62歳	両下肢有痛性筋けいねんの疑い	
25-049	8月21日	男	67歳	急性腸炎の疑い	ドンパリドン錠10mg2錠、アルウエッティ1枚
25-050	8月22日	女	63歳	急性高山病の疑い	
25-051	8月22日	女	70歳	急性腸炎の疑い	ピオフェルミン錠3錠、アルウエッティ1枚
25-052	8月22日	女	54歳	急性高山病の疑い	アルウエッティ1枚
25-053	8月22日	女	64歳	過敏性腸炎の疑い	ピオフェルミン錠3錠、アルウエッティ1枚
25-054	8月23日	男	21歳	発熱	カロナール錠300mg4錠、アルウエッティ2枚、市販マスク(ウイルスカット)4枚
25-055	8月23日	男	67歳	左腓腹筋挫傷の疑い	ニトリル手袋M、アルウエッティ1枚
25-056	8月23日	女	49歳	過換気症候群の疑い	アルウエッティ1枚
25-057	8月23日	女	30歳代	急性高山病の疑い、脱水症の疑い、(急性アルコール中毒の疑い)	
25-058	8月23日	女	57歳	急性高山病の疑い	アルウエッティ1枚
25-059	8月23日	女	43歳	急性高山病の疑い	
25-060	8月24日	女	48歳	急性高山病の疑い	ドンパリドン錠10mg1錠、アルウエッティ1枚

## 2025年度使用薬剤集計

### A. 薬剤

整理番号	薬品種類	薬品名	単位	初期値	発注点	開所時	総使用数	使用日数	補給数	補給回数	2019年	2022年	2023年	2024年
A-3	内服薬	ロキソプロフェン錠60mg EMCC	T	70	30	82	12	6	0	0	20	0	9	10
A-7	内服薬	ダイアモックス錠250mg	T	20	10	100	0	0	0	0	1	0	0	0
A-9	内服薬	ニトベン舌下錠0.3mg	T	10	5	100	0	0	0	0	0	0	0	0
A-14	注射薬	プリンペラン注射液10mg	A	15	10	19	1	1	0	0	4	0	0	1
A-22	注射薬	ブドウ糖注50%(20mL)PL	本	20	10	30	4	3	0	0	3	0	0	0
A-25	注射薬	キシロカイン注ボリアンブ1%10mL	本	9	5	10	0	0	0	0	1	0	0	1
A-31	注射薬	生理食塩液PL「フソー」100mL	本	20	10	20	4	3	0	0	9	0	1	2
A-32	外用薬	ホルタレンサボ25mg	T	10	5	10	0	0	0	0	0	0	0	0
A-33	外用薬	リンデロン-VG軟膏0.12%5g	本	15	5	20	0.5	1	0	0	1.5	0	1	1
A-35	外用薬	ゲンタシン軟膏0.1% 10g	本	10	5	10	0.5	4	0	0	2.5	0	0.5	0
A-44	消毒液	消毒用エタノールIP「ケンエー」	本	2	1	2	0.5	1	0	0	0	0	0	0
A-48	医療材料	ウロラプスティックスSG-L (検尿テープ)	瓶	2	1	1	0.5	4	0	0	0.5	0	0	0
A-50	医療材料	血糖試験測定チップ (メディセーフ用)	個	30	10	28	2	1	0	0	1	0	0	0.5
A-51	医療材料	採血用穿刺針 (メディセーフファインタッチ用)	個	30	10	33	2	1	0	0	1	0	0	0.5
A-54	内服薬	カロナール錠300	T	70	30	99	12	5	0	0	55	2	0	7
A-56	注射薬	アトロピン注0.05%シリンジ「テルモ」(1mL)	本	5	3	10	0	0	0	0	0	0	0	0
A-57	注射薬	アドレナリン注0.1%シリンジ「テルモ」(1mL)	本	8	4	10	0	0	0	0	0	0	0	0
A-59	内服薬	タリオン錠10mg	T	40	20	198	0	0	0	0	0	2	0	0
A-61	外用薬	セルタッチテープ	枚	126	49	140	8	5	0	0	19	0	7	10
A-62	眼科薬剤	クラビット点眼液1.5%(5ml)	本	5	3	10	0	0	0	0	1	0	1	0
A-63	消毒液	ゴーヨー60ml	本	10	5	23.5	2	2	0	0	0	0	0	0.5
A-65	内服薬	ドンペリドン錠10mg 「トーワ」	T	70	30	88	15	7	0	0	20	0	5	6
A-66	内服薬	ネキシウムカプセル20mg	T	20	10	199	1	1	0	0	2	0	0	0
A-67	内服薬	ピオフェルミンR錠	P	50	30	100	6	1	0	0	2	0	0	0
A-69	注射薬	生理食塩液PL「フソー」500mL	本	10	0	19	0	0	0	0	5	0	1	0
A-75	内服薬	ダラシムカプセル150mg	T	100	30	100	0	0	0	0	/	/	/	0
A-76	注射薬	ソル・メドロール静注用40mg	V	5	2	5	0	0	0	0	/	/	/	0
A-77	吸入薬	メプチンエアード10µg吸入	個	10	2	10	0	0	0	0	/	/	/	0
A-78	処置用	カテゼリー	包	100	20	100	0	0	0	0	/	/	/	0
A-80	内服薬	ニフェジピンCR10mg	T	100	30	100	0	0	0	0	/	/	/	0
A-81	注射薬	ソルアセット輸液500mL	本	20	10	20	8	5	0	0	/	/	/	0
A-82	医療材料	ウロラプスティックス	瓶	2	1	1	0.5	2	0	0	/	/	/	0

### B. 衛生材料

整理番号	材料種類	衛生材料名	単位	初期値	発注点	開所時	総使用数	使用日数	補給数	補給回数	2019年	2022年	2023年	2024年
B-1	医療材料	ラミネートコップ(100個入り)	箱	4	1	4	0.5	5	0	0	0	0	0	0
B-2	医療材料	フェースマスク酸素マスク	個	10	5	1	1	1	7	1	0	0	0	0
B-3	医療材料	注射針(21G)	個	20	10	20	1	1	0	0	2	0	0	0
B-4	医療材料	注射針(23G)	個	20	10	20	0	0	0	0	2	0	0	1
B-8	医療材料	テルモシリンジ(10ml)	個	15	8	14	1	1	0	0	3	0	0	0
B-9	医療材料	テルモシリンジ(20ml)	個	15	8	18	3	3	0	0	3	0	0	0
B-10	寄付品	テルモシリンジ(50ml)	個	4	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0
B-11	医療材料	テルフェーション三方活栓	個	20	10	5	3	3	15	1	5	0	0	1
B-12	医療材料	サフィード延長チューブ	個	20	10	20	3	3	0	0	5	0	0	0
B-13	医療材料	ナイロン縫合糸45° 20mm針付	個	6	3	5	0	0	0	0	1	0	0	1
B-14	医療材料	滅菌手袋 61/2	袋	20	10	5	0	0	15	1	0	0	0	0
B-15	医療材料	滅菌手袋 71/2	袋	20	10	5	0	0	15	1	1	0	0	0
B-22	医療材料	JMS輸液セットJY-A841L (エアークリップ)	本	35	20	30	9	6	0	0	5	0	0	0
B-23	医療材料	JMS小児用輸液セット	本	10	5	10	0	0	0	0	1	0	0	0
B-24	医療材料	テーピング(伸縮性)	巻	3	2	2.2	1	3	0	0	2.1	0	1	0.9
B-25	医療材料	テーピング(非伸縮性)	巻	3	2	3.1	0	0	0	0	0	0	0	0

B-26	医療材料	アンダーテーピング	巻	3	2	5.3	0	0	0	0	1	0	0	0
B-27	医療材料	らくのみ	個	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
B-30	医療材料	ディスクのメス	本	10	5	5	0	0	5	1	0	0	0	0
B-31	医療材料	滅菌メディガーゼ(4つ折)	袋	15	8	15	0	0	0	0	14	0	1	2
B-32	医療材料	三角巾	枚	5	3	5	0	0	0	0	0	0	0	0
B-33	医療材料	舌圧子	本	50	25	46	0	0	0	0	10	0	3	6
B-34	医療材料	伸縮性筒状ネット包帯 手先、手首	巻	1	0.5	1.1	0	0	0	0	0	0	0	0
B-35	医療材料	伸縮性筒状ネット包帯 膝、脚	巻	1	0.5	0.1	0	1	0	0	0	0	0	0
B-36	緊急BAG	エアウェイ(経鼻)7.0mm	本	3	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0
B-37	緊急BAG	エアウェイ(経鼻)8.0mm	本	3	2	4	0	0	0	0	0	0	0	0
B-38	医療材料	尿取りパット	枚	5	0	15	2	1	0	0	0	0	0	0
B-39	医療材料	氷枕	個	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
B-40	医療材料	ソフトシーネ(大)	個	2	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0
B-41	医療材料	ソフトシーネ(中)	個	2	1	3	0	0	1	1	0	0	1	0
B-42	医療材料	肋骨バンド	個	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
B-43	医療材料	伸縮包帯ソフラスコレッチNo4	個	10	5	17	0	0	0	0	0	0	1	0
B-44	医療材料	駆血帯	本	3	2	5	0	0	0	0	0	0	0	0
B-46	医療材料	尿器男性用	個	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
B-47	医療材料	尿器女性用	個	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
B-48	医療材料	テルモシリンジ カテーテルチップ50ml	個	10	5	9	1	1	0	0	1	0	0	0
B-50	医療材料	滅菌メディガーゼ(8つ折り)2 枚入	個	30	15	30	6	5	0	0	10	0	2	7
B-52	医療材料	スタイルット	本	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
B-53	医療材料	吸引カテーテル14Fr	本	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
B-55	緊急BAG	気管内チューブ(7mm)	本	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
B-56	緊急BAG	気管内チューブ(8mm)	本	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
B-57	緊急BAG	バックバルブマスク	個	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
B-61	医療器材	ディスク電極(心電図)	個	40	20	48	0	0	0	0	0	0	0	0
整理番号	材料種類	衛生材料名	単位	初期値	発注点	開所時	総使用数	使用日数	補給数	補給回数	2019年	2022年	2023年	2024年
B-63	医療材料	内診用ロールシート	巻	2		3.1	0	0	0	0	0	0	0	0
B-64	医療器材	テルモ耳式体温計 交換用プローブカバー	個	20		27	0	0	0	0	0	0	0	0
B-65	医療器材	替え電球(マグライト1、2)	個	1		1	0	0	0	0	0	0	0	0
B-66	医療器材	替え電球(喉頭鏡・緊急ボックス)	個	1		1	0	0	0	0	0	0	0	0
B-67	医療器材	心電図記録用紙(50m)	巻	r		11	0	0	0	0	0	0	0	0
B-68	医療器材	電極用クリーム	個	1		1.5	1	1	0	0	0	0	0	0
B-74	緊急BAG	経口エアウェイ	個	5		5	0	0	0	0	0	0	0	0
B-76	医療器材	黄色い箱(中)	個	5	2	6	0	0	2	1	0	0	0	0
B-77	医療器材	酸素ボンベA	本	1		1	0	0	0	0	0	0	0	1
B-78	医療器材	酸素ボンベB	本	1		1	0	0	0	0	0.5	0	0	0
B-79	医療器材	酸素ボンベC	本	1		1	0	0	0	0	0	0	1	0
B-80	医療器材	酸素ボンベD	本	1		1	1	3	0	0	0	0	0	0
B-81	医療器材	酸素ボンベE	本	1		1	0	0	0	0	0	0	0	0
B-82	医療器材	優肌バームロール	箱	1	0.5	1.1	0	3	0	0	0	0	0	0.9
B-83	医療器材	デルマエイド	枚	30	15	30	0	0	0	0	2	0	0	0
B-85	医療器材	ステリストリップ	枚	5	2	44	0	0	0	0	3	0	0	1
B-86	医療器材	ソフトシーネ(指用)	個	2	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0
B-87	医療器材	ソフトシーネ(上肢用)	個	2	1	2	0	0	0	0	0	0	1	0
B-88	医療器材	JMSシート	個	5	3	5	0	0	0	0	0	0	0	0
B-89	医療器材	処置用持針器	本			8	0	0	0	0	1	0	0	1
B-90	医療器材	処置用ハサミ	丁			7	0	0	0	0	2	0	0	2
B-91	医療器材	消毒用鉗子	本			2	0	0	0	0	0	0	0	0
B-92	医療器材	処置用ピンセット	本			2	0	0	0	0	2	0	0	5
B-93	医療材料	ニトリル手袋M(250枚)	箱	2	1	0.5	0	0	2	1	0	0	0	0
B-94	医療材料	ニトリル手袋S(250枚)	箱	2	1	0	0	0	1	1	0.5	0	0	0
B-95	医療材料	スワブスティック	本	30	10	20	1	1	0	0	2	0	1	0
B-96	医療材料	アルウエットィ	個	200	50	200	102	20	0	0	1	0	0	0

B-97	医療材料	注射針(18G)	本	10	3	15	4	4	0	0	13	0	2	4
B-98	医療材料	針刺し防止機能付きサーフ ロー針(20G)	本	10	5	5	0	0	0	0	1	0	0	0
B-99	医療材料	針刺し防止機能付きサーフ ロー針(22G)	本	50	25	30	8	5	0	0	6	0	0	1
B-100	医療材料	オキシジェンカニューラ大人 用フレアコネクタタイプ	本	20	5	20	3	3	0	0	3	0	1	1
B-101	医療材料	ノンスリップシート	セット	1.5	0.5	6.5	1	1	0	0	1	0	1	0
B-102	医療材料	酸素ボンベF	本	1		0	0	0	0	0	0	0	0	0
B-103	医療材料	ポケットマスク	個	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
B-104	医療材料	舌鉗子	個	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
B-105	医療材料	バイトブロック	個	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
B-106	医療材料	フルイドシールドマスク	枚	5	2	102	0	0	0	0	0	0	0	0
B-107	医療材料	縫合針	個	6	3	0	0	0	0	0	1	0	0	0
B-108	医療材料	縫合糸	個	6	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
B-109	医療材料	ヘキシジン	箱	1		1	0	0	0	0	0	0	0	0
B-110	医療材料	心電図記録用紙(長方形)	束	1		1	0	0	0	0	0	0	0	0
	医療器材	N95	個		10	20	0	0	0	0		0	0	0
	医療器材	ガウン	枚			14	0	0	0	0		0	0	0

## 処方および薬剤等の準備(調剤)時の注意事項

名古屋市立大学病院 薬剤部

早川智章(薬剤師)

蝶ヶ岳ボランティア診療班

2025 年度薬剤部門長 近藤尊彦(M3)

### ① A 材オーダー表を用いた処方および準備

《整理番号を用いた準備の指示》

スタッフが薬品名を聞き間違えることを防ぐ為に、医師は A 材オーダー表(2017 年度に新たに作成)に基づき「整理番号」および「商品名」の 2 項目でスタッフに指示を出す。

《医師の指示の復唱と、準備時のダブルチェックの徹底》

医師の指示を受けた薬剤等の準備者(以下準備者と略)は、医師に対して「整理番号」、「商品名」、「薬剤カテゴリ」を声に出して確認する。準備者は確認した後、薬剤配置表の「整理番号」に基づき準備する。

準備者は準備した薬剤および A 材オーダー表を、必ず医師に示して医師に目視で確認してもらう。

注射剤を調製する場合は、準備した薬剤を薬剤師・看護師などの注射剤を調製する医療スタッフ(以下調製者と略)に渡す。調製者は調製前の薬品と調製後の薬品を、必ず医師に示して医師に目視で確認してもらう。

⇒手順については次項の処方および準備手順参照。

### ② 準備に関わる行為の署名欄および確認チェック欄の追記

準備に関わった者が責任を持って仕事を果たす為に、カルテに準備者と調製者の署名欄を設ける。また最終確認者である医師のチェック欄(レ点チェック)も設ける。準備者と調製者は作業完了時に署名し、医師は医師確認欄にチェックする。

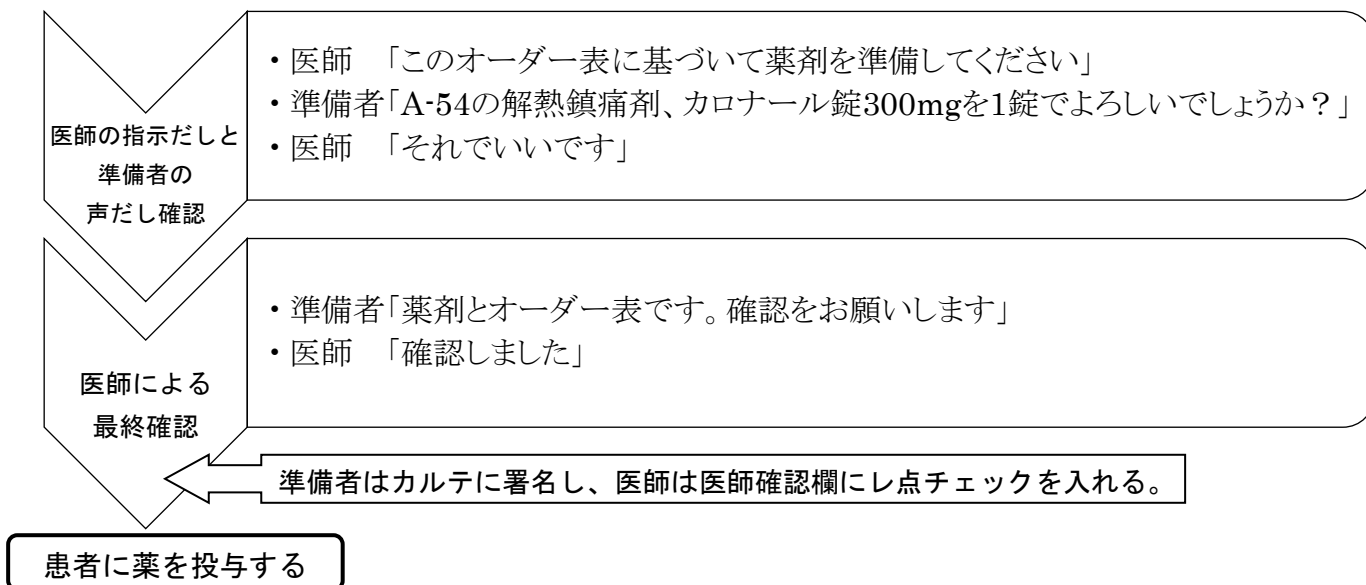
※医師が一人で診療を行う場合はこの限りではない。

※看護師・薬剤師が準備者である場合は調製者も兼ねてよい。

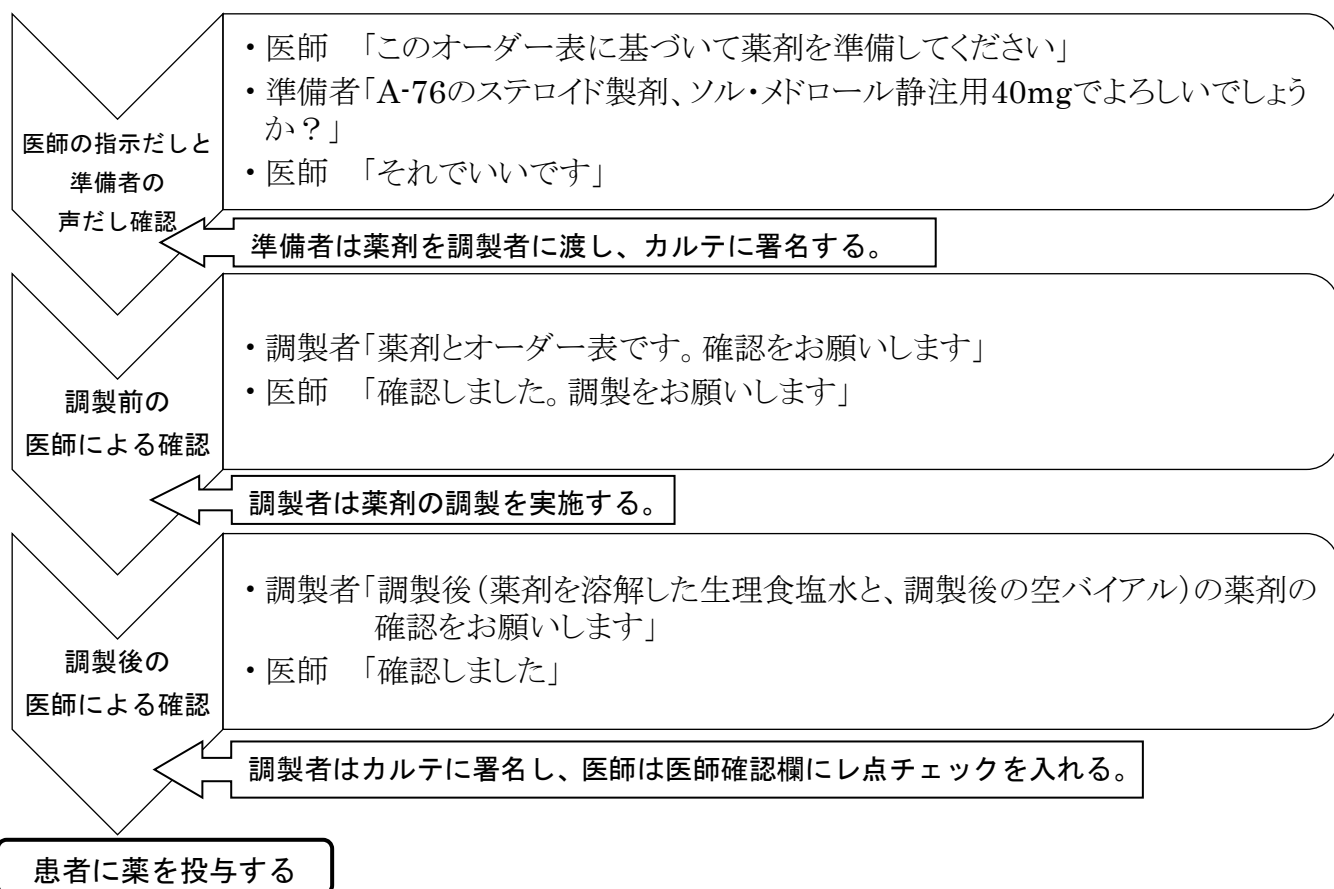
※以上の注意事項は A 材のみを対象としている。B 材・C 材・D 材を使用する際にこの手順を踏む必要はない。

## ○処方および準備手順

### A) 内服薬の処方および準備、医師による確認(外用薬もこの手順に準じる)



### B) 注射剤の処方および準備、医師による確認



## 酸素ボンベについて

蝶ヶ岳ボランティア診療班  
2025 年度薬剤部門長 近藤尊彦 (M3)

### [酸素不足に対する対応の経緯]

2016 年度の酸素ボンベ不足の事態を受け、2017 年度に行った対応を示す。

#### ①酸素ボンベ新規購入およびメンテナンス時期の調整

##### [目的]

2017 年度診療所開所時に満タンの酸素ボンベが 5 本ある状態にする。また所有するすべての酸素ボンベのメンテナンスを開所期間とずらす(例えば 9 月にメンテナンスに出すことでその 3 年後の 8 月までは問題なく使用できるようにする)。

##### [経緯]

2017 年 6 月時点で診療班が所有する酸素ボンベのメンテナンス状況を以下に示す。

〈酸素ボンベメンテナンス状況〉2017 年 6 月時点

	前回メンテナンス時期	次回メンテナンス時期	保管場所と対応	残量	2017 年 11 月時点での保管場所と残量
A	2016 年 8 月	2019 年 7 月 31 日	部室、荷上げ	満タン	診療所、満タン
B	2016 年 8 月	2019 年 7 月 31 日	部室、荷上げ	満タン	診療所、満タン
C	2014 年 8 月	2017 年 7 月 31 日	部室、荷上げ	満タン	診療所、56L
D	2014 年 8 月	2017 年 7 月 31 日	診療所、 使用後荷下げ	134L	業者により回収済み
E	確認できず*	確認できず*	診療所、 使用後荷下げ	満タン	部室、満タン(2017 年 10 月メンテナンス済み)

\*診療所にあるため山頂報告を確認した結果を示す。

・酸素ボンベメンテナンスについて:酸素ボンベのメンテナンス期限は前回メンテナンスから 3 年後の 1 か月前までである。メンテナンス期限を過ぎた酸素ボンベについては充填の際にメンテナンスが必要になる。メンテナンスには約 1 か月かかる。

・使用順について:メンテナンス時期と残量を考慮しボンベ D、E、C から優先的に使用する。

メンテナンス状況、ボンベ使用順などを考慮した結果、開所期間中に酸素不足の事態に陥る可能性が考えられた。そのため酸素不足の予防として、ボンベを 1 本新規購入し(ボンベ F)開所時に満タンのボンベが 5 本ある状態にした。

また所有するボンベのメンテナンス時期を開所時期とずらすことで、開所期間中に充填に出したとしてもメンテナンスされることなくすぐに使用できる。そのため今年度よりボンベのメンテナンスは閉所後の 9 月以降に出すこととする。今年度はボンベ D、E について 2017 年 9 月にメンテナンスに出した。他のボンベについても来年度以降順次メンテナンス時期を調整していく。

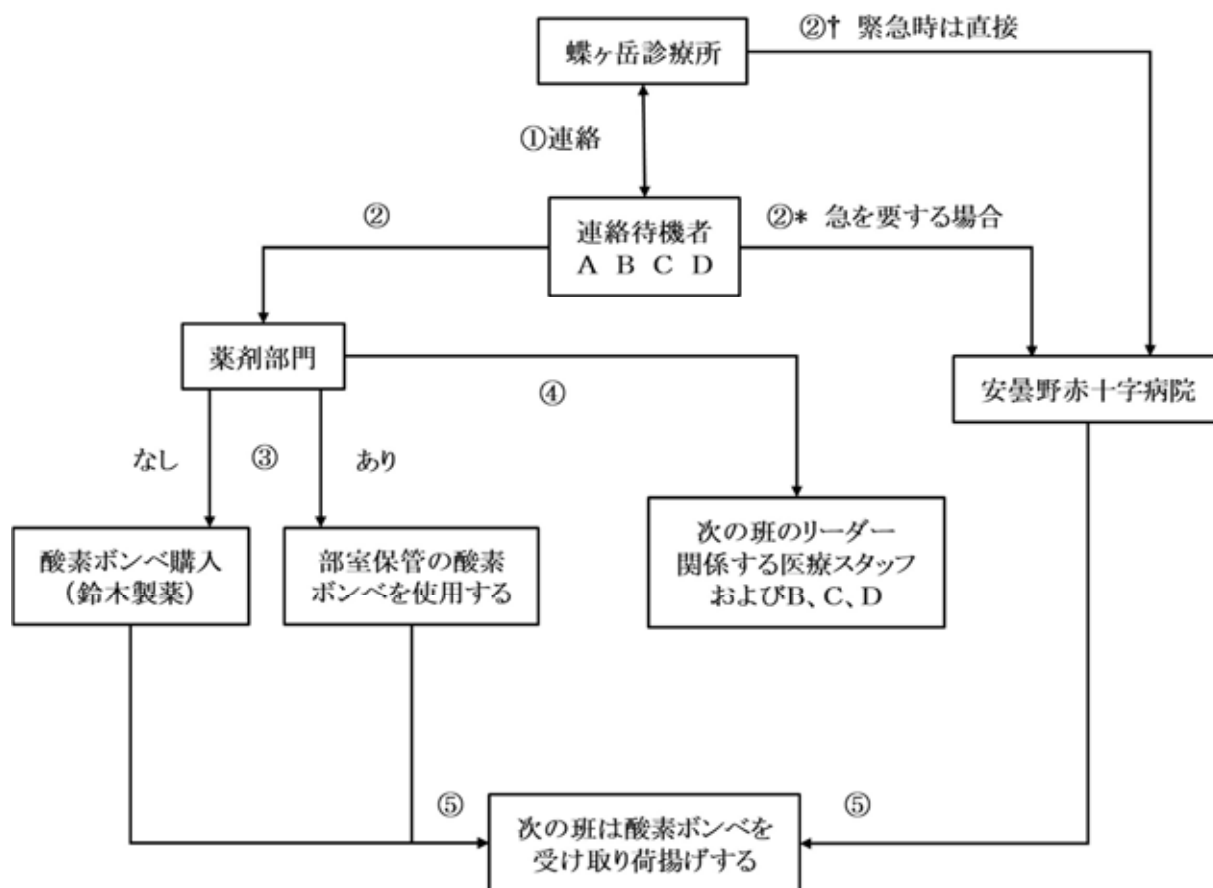
#### ②「酸素ボンベ不足への対応」の改定

2016 年度報告書に掲載したもものから 2017 年度版として一部変更した。

##### [変更点]

フローチャート内の③について、2016 年度報告書に載せたものでは鈴木製薬からボンベのレンタルを行うことになっていた。しかし本診療班が所有している容量の酸素ボンベはレンタルを行っている会社がないことが分かった。そのため新規購入したボンベ F を部室保管とし、酸素不足時に素早く対応できるようにした。また部室保管のボンベが荷上げされ部室に無い場合などはボンベの新規購入を検討する。

## ○酸素ボンベ不足への対応



### 連絡の流れ

継続的な酸素投与が必要な際に、診療所にある酸素ボンベが 5 本のうち 2 本の残量がゼロになった。

- ①診療所から連絡待機者(※)に電話または Skype を用いて連絡。  
(※)診療所から薬剤部門長(A)、運営委員長(B)、診療班代表(C)、診療所長(D)に連絡する。
- ②第一報を受けたものが薬剤部門の部員にその旨を伝達する。
- ②\* ②†ただし酸素ボンベの名古屋から安曇野への輸送には時間がかかるため、それが間に合わない場合は連絡待機者(②\*)あるいは診療所から直接(②†)安曇野赤十字病院総務課に電話し酸素ボンベを借りる手配をする。時間外の場合は事務当直にその旨を伝える。  
安曇野赤十字病院 代表 TEL:0263-72-3170
- ③薬剤部門は部室保管の酸素ボンベがある場合は、それを使用する。また、部室保管の酸素ボンベがない場合は、鈴木製薬(TEL:052-881-2745/1434:留守番電話による 24 時間対応)より酸素ボンベを購入する。目安として、購入の連絡をしてから在庫がある場合は 1~2 週間、在庫がない場合は、1~2 ヶ月かかる。
- ④薬剤部門が、次に出発する班のリーダー(ポーターの場合は最上級生)、関係する医療スタッフに連絡する。
- ⑤次の班が酸素ボンベを受けとり診療所へ荷上げする。  
(安曇野赤十字病院より酸素ボンベを借りる場合は、診療所から連絡がきた時点で安曇野にいる学生、安曇野にいる学生がいない場合は診療所の学生が下山して荷上げする、ポーターの場合は 1 本のみ荷上げでもよい。その場合その次の班がもう 1 本を荷上げする)  
薬剤部門は診療班所有の酸素ボンベが荷下げされ次第充填を手配し速やかに荷上げできるように進める。  
★安曇野赤十字病院等への対応では、班員の安全を第一に考え天候不順、班員の体調不良などがある場合は無理をしないようにする。

[2025 年度に行ったこと]

部室にて保管されていた酸素ボンベ A・F を診療所へ荷上げし、酸素ボンベ B,D,E の 3 本を部室に下ろした。酸素ボンベ D,E は残量があり、メンテナンス期限が切れているため勉強会等での学生練習用とし、診療所で使用する新たな酸素ボンベ D,E を新規購入する。

〈酸素ボンベメンテナンス状況〉2025 年 9 月時点

	前回メンテナンス時期	次回メンテナンス時期	残量	2025 年 9 月時点での保管場所
A	2024 年 10 月購入	2029 年 9 月 30 日	満タン	診療所
B	2022 年 9 月購入	2027 年 8 月 31 日	満タン	部室
C	2023 年 11 月購入	2028 年 10 月 30 日	満タン	診療所
D	2018 年 5 月購入	2023 年 4 月 30 日	あり	部室(学生練習用)
E	2017 年 10 月	2020 年 9 月 30 日	あり	部室(学生練習用)
F	2024 年 10 月購入	2029 年 9 月 30 日	満タン	診療所

[2026 年度の予定]

開所時に酸素ボンベ B の荷上げを行い、1 班で新規購入予定の酸素ボンベ D の荷上げを行う。新規購入予定の酸素ボンベ E は部室保管とする。



(2025 年 8 月撮影)

## 越冬させた輸液剤の取り扱いについて

蝶ヶ岳ボランティア診療班

2025 年度薬剤部門長 近藤尊彦 (M3)

2025 年より、診療所で越冬させた輸液剤の取り扱いについて、三役の先生方や薬剤部の早川先生と共に検討し運営会議に提案、承認された。

・越冬させた輸液剤の取り扱いについて(2025 年 5 月)

(名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療班の学生参加に関するガイドライン 6 ページ目に記載)



(2025 年 8 月撮影)

令和7年8月16-17日

## いわゆる弾丸登山による急性高山病と治療後の対応に苦慮した一例

記載;診療所長 服部友紀

対応者;豊川市民病院研修医1年 井手上駿

理学療法士;桜井春香

学生:8班 藤井祐宇(M4) 細田桃花(M4) 高橋侑里(N3) 岩澤佑太朗(M1)

### 【患者】

30代男性

### 【主訴】

寒い、体動困難

### 【現病歴】

8月16日上高地から登山開始。槍ヶ岳、東鎌を経て、大天井岳、常念岳へ。常念岳あたりから休みながらしか進めなくなり、水分を摂取しても吐いてしまう状態になった。19時30分頃、レスキューシートで身を包んだ状態で蝶ヶ岳ヒュッテ玄関に倒れこんだところを他の登山客が目撃。診療班に連絡があり、接触した。

### 【身体所見】

意識 JCS I-1、SpO<sub>2</sub> 100%、脈拍数 88回/分、血圧 88/62mmHg

体温 37.4℃、呼吸数 接触時測定できず。努力様呼吸・浅く速い呼吸を認めた。

右膝伸側正中に虫体付着あり、周囲2cm大に発赤を認める。その他皮疹を認めず。

### 【既往歴・内服・アレルギー】

特になし

### 【処方・処置】

接触時、「寒い」との発言あったため、レスキューシートの上から毛布で保温。ヒュッテの方に温めた経口補水液を調整してもらい、飲水指示したが困難。低血圧、末梢冷感、末梢血管の収縮を認めため末梢静脈からの輸液が必要と判断し、19時45分頃診療所ベッドに移動、右前腕から22Gサーフロー針にて静脈ルート確保、ソルアセット 500mL を全開投与開始。投与10分後に血圧90/60、発汗を認め、四肢末梢冷感改善したため、輸液反応性ありと判断。ソルアセット1本目終了後、ソルアセット2本目開始。嘔気の訴えあったため、側管からメクロプラミド10mgを1A投与。

(この後電話で服部に相談)

ソルアセット3本目追加、尿出るようになれば尿検査、経口摂取可能になれば経口補水液投与の指示。脱水症と高山病の合併が疑われ、横紋筋融解症やケトン体による自家中毒状態と考えられるため、翌日に速やかにヘリでの下山・病院搬送を推奨した。

ソルアセット3本目開始、SpO<sub>2</sub> 85%まで低下していたため、経鼻カニューレで酸素2L投与、5分後に

100%まで改善した(徐々に酸素流量減らし、酸素投与開始 30 分後には酸素 off とした)。22 時 28 分に尿意の訴えあったため、男性尿器にて採尿し、尿検査を実施。

<尿検査>尿量 120mL 程度 色調 黄色~濃黄色 白血球 ± ウロビリノーゲン 1~2

タンパク質 1+~2+ pH 7.5 潜血 陰性 比重 1.015

ケトン体 4+ ブドウ糖 陰性

治療により、会話可能な状態まで症状改善した。

#### 【症状改善後の対応】

井手上医師、桜井理学療法士にて現在の状況と今後考え得る経過についてお話しし、ヘリでの下山が推奨されるとご説明した。ご本人、料金・家族の心配などを理由にこれを拒否。現時点で症状軽快していても、臓器への負担は図り知れず、これまで経験してきた症状とは次元が違う。急変などあった場合、致命的な経過をたどりうる可能性があり、診療所ではそうなった場合に対応できない、体内の状態を適切に評価できる環境もないことをご説明。しかし、ご本人の希望変わらず。ヒュッテ駐留の救助隊の藤田様やヒュッテスタッフの方にもヘリでの下山について説得に参加していただいたが、やはりご本人の希望変わらず。

最終的に本日は診療所ベッドにて一晚経過観察とし、翌日 5 時の時点での体調見て最終判断(相談)することとなった。

翌朝、本人の体調はさらに回復。診療所の方針は①無理せずヘリ搬送②もう 1 日ヒュッテで体調回復に努めて翌日下山を提案した。

しかし、一貫して本人は本日の独歩下山を主張され今後は自己責任で上高地へ下山することとなった。ヒュッテ駐留の救助隊、スタッフより上高地事務所に連絡し経過確認と緊急時の対応を依頼した。

#### 【転帰】

その後無事に上高地に下山したことが伝えられた。

#### 【対応した診療班・医療スタッフ・診療所スタッフの感想】

まずは危険な状態から下山できるまで症状が改善し大変良かった。一方で、自己の曖昧な判断で危険な状態となったにも関わらず、回復後は周囲の説得を振り切り再度危険な行動に出てしまった。自己責任での行動になるとは言え、そのフォローをしない訳にもいかず、下山地への連絡、途中経過の確認などスタッフ側は「振り回された」形となった。

充実感と共に一種の「やるせなさ」を感じたことも否めない。

## 雲上セミナー記録

蝶ヶ岳ボランティア診療班

2025 年度報告書部門長 大岩篤史 (M3)

安全登山の啓発を目的としています。蝶ヶ岳ヒュッテ内の食堂にて午後7時から20分程度の講演会(演者は学生あるいは医療スタッフ、テーマは「高山病とその予防」など)を行います。その後、参加者の血圧や血中酸素飽和度の測定を行います。2025年は平日と週末に計15回開催されました。

日付	テーマ	発表者
7/27(日)	高山病	M3 近藤優衣
		M3 重田篤希
7/29(火)	山ご飯がおいしい理由	M3 西原周音
	高山病	M3 大岩篤史
7/30(水)	高山病	M3 大岩篤史
8/4(月)	高山病	M2 堀部綾音
8/5(火)	高山病	M4 伊藤佑真
8/6(水)	高山病+箏	M4 伊藤成洋
8/8(木)	高山病	M1 藤井惇生
8/12(火)	高山病	N3 前山にこ
		N1 金子相良
8/13(水)	経穴の押し方	N1 栗本結衣
8/16(土)	高山病	N3 高橋侑里
8/17(日)		M1 岩澤祐太郎
8/19(火)	日焼け	M5 宮永大二郎
		M1 多久田真央
8/21(木)	高山病	N3 樋山咲乃
		M1 小林政輝
8/22(金)	山・月と睡眠の関わり	M1 鈴木徹平
8/23(土)		M1 西澤匠哉

### 【総括】

高山病についてのセミナーを計 11 回行った。いずれも、症状・対応・予防を中心に高山病を説明し、あわせて診療所の存在を周知した。その他、山に関するテーマのセミナーも行った。

### 【参加者からの質問】

以下に今年度挙げた質問を一部記載する。

- Q.高山病になったら下山するしかないか、下山以外にはどのような対処法があるか。
- Q.寝ているのではなく軽い運動をすると良いというが、どのくらいの程度が良いか。
- Q.血中酸素濃度の危ない数値的な目安は何か。
- Q.市販の酸素マスクではあまり効果はないのか。
- Q.高山病によく効く市販薬はあるか。
- Q.もし高山病になってしまった時に、その後縦走しても良いか。
- Q.肺水腫の症状はどのようなものか。
- Q.疲れと高山病の見分け方はあるのか。
- Q.高山病になりやすい体質はあるのか。
- Q.高山病のような症状のときに、水とスポーツドリンクのどちらを取るのがよいのか、また、梅干しもよいのか。
- Q.高山病でつらくて眠いときに、寝かせるべきか起こしておくべきか。
- Q.下山で高山病と逆のことは起きるか。
- Q.高山病の予防には睡眠が大切、高山病の予防で睡眠薬の使用は推奨されない。眠れない場合はどちらを優先するか。
- Q.手が浮腫むのは高山病か、熱中症か。
- Q.高山病の予防や治療に携帯用の酸素缶は意味があるか。
- Q.眠れるツボはあるか。
- Q.高山でなくとも登山すると頭痛が起きるがなぜか。
- Q.山の高さによって高山病罹患リスクは変化するか。
- Q.登山中に過呼吸になったら深呼吸すればよいのか。
- Q.普段ほとんど高山病にならないが、突然高山病になることはあるのか。
- Q.学生は何日間程滞在するのか。
- Q.低気圧の環境下での片頭痛への市販の頭痛薬は高山病に有効か。
- Q.高地順応の機序と目安はどれくらいか。
- Q.満月の日に山登りを控えたほうが良いと言われるのはなぜか。
- Q.睡眠薬を飲むのがなぜ良くないのか。
- Q.水分量が少ないとどんな症状が出るのか。
- Q.高山病になった際頭痛薬はどの程度飲めば良いのか。
- Q.高山病に対する漢方使用の服薬量はどの程度が理想か。

## 予防的介入活動報告

蝶ヶ岳ボランティア診療班  
2025 年度診療環境部門長 奥瀬遥香 (M3)

蝶ヶ岳ボランティア診療班では、2005 年に起きた高校生の死亡事例\*をきっかけに「予防的介入活動」と称して登山者に対して声をかけて体調を伺ったり、体調不良の早期発見に努めたりすることで高山病の予防啓発活動を行ってきた。2007 年から蝶ヶ岳ヒュッテでの雲上セミナー参加者を対象としたアンケート調査を行い、予防的介入活動の効果の評価や今後の方針に活かしている。2016 年は蝶ヶ岳ヒュッテ内に高山病予防啓発ポスターを掲載した(図 1)。2017 年から三股登山口でポスター(A3 サイズカラー、ラミネート包装)を 1 枚掲示しており、2018 年以降は計 2 枚掲示している。2018 年は予防的介入カードを改訂し、より手にとってもらいやすいカードとした(図 2)。

2023 年は、4 年ぶりに学生が参加する診療活動再開であり、感染症対策と診療活動サポートに注力するという判断から雲上セミナーを行わず予防的介入カードを配布した。2023 年 5 月 9 日、新型コロナウイルス感染症がいわゆる第 2 類相当から第 5 類になったことに伴い、行動制限がなくなり個人の選択を尊重し、国民の自主的な取組をベースとした対応となったことを背景に、2024 年から雲上セミナーを再開した。

2025 年の雲上セミナーについて、例えば、1 班(7/27~7/31)は高山病と山頂でご飯がおいしく感じられる理由をテーマとして行い、セミナー後は登山者を対象として SpO<sub>2</sub> や血圧の測定会を開催した。前半は高山病の主な症状や予防、仕組みについて、後半は環境面や精神面の変化による味覚の違いについて説明した。セミナーでは参加者から多くの質問をいただき、測定会にも多くの方に参加していただいた。雲上セミナーを通して診療所の存在を知り、来診された患者も複数いた。雲上セミナーや予防的介入活動は登山者の安全を守る上で意義があると考えられるため、今後も積極的に行いたい。

\*酒々井先生(診療班代表)からの補足コメント:本事例の詳細については次の文献をご参照ください。原田智紀他「蝶ヶ岳から長堀尾根を下山中に標高 2,350m 付近で死亡した 16 歳男性について」登山医学 33: 139-152, 2013.

尚、原田先生(医師)は日本大学医学部徳沢診療所の管理運営を長期に渡り行っておられ名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療所とは患者下山後のフォローや学生の交流で以前より大変お世話になっています。特に、三股登山口へのアクセス道路が崩落した 2018 年は学生班の登山は全て上高地経由の徳沢～長堀ルートとしたので、日大診療所のすぐ隣にある登山口を利用しました。私たちにとっては極めて重要な連携施設となっています(詳細は 2018 年度報告書 p24~41 と本学ホームページの「社会貢献」参照)。



図1 高山病予防啓発ポスター



図2 予防的介入カード(上:内側、下:外側の二つ折りカード)

## 参加者感想文

### 【16年目の蝶ヶ岳診療所】

近年7月初旬降水の影響で私たちが利用するルート(三股と徳沢)に通行障害が生じるケースがあるため昨年同様に事前ルートチェックを行った。受診者があれば診療活動も実施。午後6時半にほりで一ゆ着(中央道下り岡谷のあたりはいつものように渋滞30分)、翌朝登山(単独)、晴、午後2時診療所着、歩荷した外来医マニュアルを設置、昼食(カレーライスとポカリ)、午後4時に中村楓(かえで)ヒュッテ主任様に挨拶(当日中村梢(こづえ)社長様は塩尻市事務所勤務中)、他登山グループと一緒に夕食、診療所内にて宿泊(布団・毛布・枕はヒュッテ様より提供)、翌朝下山(単独)、今年も神谷丈二様(中村兄弟父)が登山口におられコーラをいただきました、ほりで一ゆ泊、翌帰名。なんか最近学生登山班のコースタイム早くね(ひとりごと)。

(診療班代表 酒々井眞澄)

### 【1班】

今年もまた、素晴らしい眺望が出迎えてくれました。年齢を重ねるごとに、この雄大な自然の中で医療活動が行えることへの感謝の念は深まるばかりです。昨年はコロナによる活動中止の影響が残り、準備班のセットアップに一部不十分な点が見受けられましたが、今年は滞りなく完璧でした。今後は、患者さんや登山客との対話の時間を増やすなど、より心の通った、深みのある診療を目指して活動を展開されることを期待しています。

(医師 浅井清文)

### 【3班】

昨年度6年生で初めて夏山に参加し、今年には医療スタッフとしての参加となりました。2年連続台風により期間短縮を余儀なくされましたが、3班の学生班員の皆さんの元気とやる気に助けられ無事に活動を全うすることが出来ました。また機会があれば参加させていただきたく思います。ありがとうございました。

(医師 木村颯花)

本当に本当にお世話になりました。

おかげさまでとても楽しかったです。

来年以降もなんとか北京都から参加させていただきすのでよろしくお願いします。

### P.S.

総合診療科というマイナーな診療科に所属しておりますので、ジェネラルに興味のある方や総診志望の方と同じ班にさせていただけたらたくさんお話しできるかと思えます。

(医師 田中秀和)

### 【4班】

2019年以来、久しぶりの夏山参加でした。パイロット版では一人一人に感謝を伝えてたら200字超えたので、スタッフ、学生の方々にまるっと感謝を述べて感想に移ります。200字って短いね。親友夫婦に誘われて、プチ同窓会みたいな感じで夏山参加。変わったことがちらほら、変わってないことも多数。山頂の景色は、変わらないですね。良い人ばかりでとても楽しかったです。また手伝いにいきますので、同行者共々どうぞよろしく。

(医師 日置啓介)

今夏は停滞前線の影響で天候には恵まれず、山上3泊、穂高連峰の稜線も御来光もほとんど見られませんでした。患者さんも少なく、沈殿という語がびつたりの診療所活動でした。それでも下山前日の晴れ間に学生さんたちと蝶ヶまで足を伸ばせましたし、下山間際にはライチョウの親子にも遭遇し、最後にちよっとだけ運が向いたようです。そろそろ引退かなとも思いますが、声をかけていただけるのならば、少し歩く練習をして参りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

(医師 青木康博)

### 【5班】

今年三俣の駐車場の心配から上高地からの入山とし、久々に河童橋からの吊尾根を堪能した後、暑く長い

長堀尾根を経て山頂へ。槍穂高の絶景が迎えてくれました。お盆の時期、北アルプス入門編の山とあって、様々な登山客で賑わって患者様も複数。診療所の活動も充実しました。2日目は、暴風雨で上高地の雨量も基準値を超え、バスが運休すると連絡があり、3日目、朝の挨拶もせず下山となり、恒例の写真撮影をしなかったのが心残りです。今年も活動に参加させていただき感謝申し上げます。5班の皆さまお世話になりました。楽しかったです。これからも体が許す限り山に登ります。

コロナ禍後初めての診療所参加は定年退職後となつてしまいました。大学を離れ、また診療所の運営方法も様変わりしていて、うまく適応できるか若干不安だったのですが、幸か不幸か患者さんもそれほど多くなく、天候にもまずまず恵まれ、大過なく、山上での充実した日々を送ることができました。なにより、学生さんたちの澁刺とした姿や活動を目の当たりにできたことを嬉しく思います。診療版の今後ますますの発展を祈念致します。  
(保健師 鈴木美帆)

懲りずに飽きずに参加し続け、学生の頃を合わせるともう11回目、いつの間にか卒後7年目になった。学生の頃と違って重たい食材を背負わなくても良いと言うのは気楽だが、30歳台になり体力面は不安でいっぱいである。今後も毎年同じ不安を抱き、なんだかんだなんとかならなりたい。今年もお礼の手紙を受け取り、豪雨と強風の山頂生活を思い出しながら、来年また初めましての学生たちと過ごす山頂に想いを馳せている。  
(医師 佐々木謙)

## 【6班】

2回目参加させて頂きました。まずは私を受入れて下さった6班の皆様、並びに活動の場を与えて下さった全ての関係者の皆様に心よりお礼申し上げます。

今回は初日より雨の中の登山となりましたが、久しぶりの雨の山も悪くないなと思う一方で、今年が初参加の学生の方々は是非晴天の蝶ヶ岳を観て頂きたいなと思っております。

2日目も荒れた天気、今日は誰も登って来ないだろうと思ってましたが、なんのなんの…なんだかんだで初

日を超える人出でした。数名の方にお話しを伺ったところ、皆様西日本からお越しとのこと。流石は北アルプス。この様な天候でも年一回の一大イベントの如く登って来られる、ここはそんな山域なのです。そんな登山の聖地とも呼べる北アで診療活動をさせて頂いてる事がこれ以上なく有難く貴重な経験なんだと感じております。感謝しかありません。

来年また宜しくお願ひします。(劔岳登山の帰路にて)  
(看護師 酒井田正克)

今年は卒業後初めての夏山となりました。学生として登った時とはまた違った緊張感があり、新鮮な気持ちで参加していました。

実際の山頂はなかなかの悪天候で登山客も少なく、散歩に出かけることもできず。夏山初参加の学生にとってはなかなか酷な2泊3日であったかもしれません。研修医のみという心許ない期間であったとは思いますが、みなさんに優しくしていただき無事下山までたどり着きました。ありがとうございました。

(医師 西山真由)

## 【8班】

スタッフ側として初めての夏山でした。上級医不在期間もあり、今までになく緊張して臨みました。登山開始後すぐにソロ登山の寂しさとこれまで共に登ってくれた班員への感謝を噛み締め、山上では竹内先生手作りのボードゲームに興じ、と平和な夏山ライブを送れてよかった、と思いきや翌日は上級医不在の中での初めての患者さん対応、雲上セミナーの質問対応と忙しい1日でした。8班の皆様、竹内先生、桜井様に支えられてなんとか夏山業務を全うできました。

3日間とても勉強になる夏山生活でした。

貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

(医師 井手上駿)

コロナ禍以来、久しぶりに参加させていただきました。懐かしい蝶ヶ岳に登ることができただけでも感無量でしたが、学生の皆さんの温かいサポートのおかげで、有意

義な山頂での時間を過ごすことができ、心より感謝申し上げます。

山頂では、ヒュッテの皆様や登山客の方々と、できる限り一緒に時間を過ごすよう努めました。そのなかで、蝶ヶ岳ボランティア診療班の活動が、山に関わる多くの方々の安心につながっていることを改めて実感いたしました。貴重な活動ですので、自信を持って続けてください。応援しています。  
(医師 宇佐美琢也)

毎年参加しており、いつも平穏な診療所が多かったのですが、今年は無茶なトレランの方が来られて、状態も緊迫しておりましたが、ご同行していただいた井出上先生やアドバイスいただいた服部先生、ヒュッテのスタッフさん、山岳救助隊の藤田さんみんなで協力して助けられたことが何よりの経験でした。自己研鑽し、また参加させていただきたいです。  
(理学療法士 桜井春香)

9年ぶりに参加。8,9班の水野君、藤井君を始めとする皆さんには大変お世話になりました。

帰りは東鎌尾根から槍ヶ岳にも寄り道。充実した山行でした。

過去に発生した/或いは生じ得る各種傷病に対して、診療班で利用できる資材を用いた標準診療マニュアルのようなものがあると、研修医やブランクを空けて参加したOBOGの助けになるかと思いました。私も必要であれば作成に助力させていただきます。  
(医師 竹内智洋)

#### 【9班】

スタッフとして登った初めての夏山でした。

山頂で一緒したスタッフや学生の皆様に支えられて、2日間という短い時間でしたが、無事活動を終えることができました。来年以降も夏山に関わることができたら幸いです。そして下山翌日に当直に入るのは気持ちがいそいだったのでもうやめようと思いましたが、良い学びを得ました。ありがとうございました。  
(医師 安東知里)

ヒュッテで2泊しました。患者さんは少なく診療班としての活動は十分貢献できたとは言えませんが、日の出と満天の星空を2日も堪能できました。登りがキツくなってきているのを年々感じますがこれからも頑張っていきたいと思います

(医師 服部友紀)

今回の蝶ヶ岳登山は、天候に恵まれた素晴らしい山行となった。今年は全国的にクマの出没が深刻な問題となっているが、幸い無事に登山を完了できて安堵している。

一方で、現在も続く薬品供給問題は深刻な課題である。本来使用できるはずの薬が手に入らず、診療に影響が生じている現状を踏まえると、山岳救急に必要な医薬品の確保は重要な課題であると感じている。薬剤担当として早急に薬品を充実させ、登山者の安全確保に万全を期したい。  
(薬剤師 早川智章)

#### 【整理班】

今年は初めて医療スタッフが自分しかいない2日間を過ごしました。

心細さはありませんでしたが、頑張っている1年生の初々しさや3年生の成長、6年生の安定感を見て懐かしい気持ちになりました。

個人的には、これまで登りたがっていた両親と登ることができ、少しは親孝行できたかのかなと思います。それなりに患者さんは来院されましたが幸いにして重症例はなく、診療班として有意義な活動ができたと言えるのではないのでしょうか。

クマの脅威などありますが、今後も診療班の活動が続いていくことを祈っています。

(医師 畑中景)

## 学生感想文

### 【準備班】

今年は準備班として開所作業を行いました。同期だけの編成で、初めての作業に戸惑いながらも、声をかけ合って協力できたことが印象に残っています。天候にも恵まれ、満天の星空やご来光、雷鳥との出会いなど、山の魅力をたくさん感じる事ができました。音楽を通して登山客の方々と癒しの時間を共有できたのも、この班らしい素敵な思い出です。夏山活動を支えてくださったすべての方々に感謝しています。ありがとうございました！

(M3 近藤優衣)

2度目の夏山で、初の準備班としての登山でした。今年の準備班は3年生のみでの班構成ということで、昨年より一層自分のやるべきことを意識して動く必要がありました。この夏山を通して非常に成長できたと感じます。

来年は上級生側としての登山になるかと思うので、自ら引っ張って行けるように、さらに勉強していきたいと思っています。

(M3 重田篤希)

夏山では、普段では味わえない貴重な体験をすることができました。日頃学んでいる知識が実際の診療活動で役立つことを体験し、勉強会や授業の重要性を改めて感じました。また、夜空やご来光など自然の美しさも感じる事ができました。今回の経験をこれからの学びに生かしていきたいと思っています。

(M3 中村瑠莉)

### 【1班】

今年度で3度目の夏山活動に参加させていただくこととなりましたが、班長として、そして幹部代として参加する今年の夏山は責任感という点で昨年までとは大きく違いました。

コロナ禍が明けて3年目の活動となりましたが、登山者数がコロナ以前まで回復するに伴って患者数も増加し、より一層診療班の存在が重要になっていくように感じます。私は少しでも診療班を活発にしていきたいとい

う一心で準備を進め、1班の常念縦走計画は実現しませんでした。様々な料理を楽しむことができました。

また、個人的に蝶常念縦走や双六槍縦走といった経験を今年積むことができたため、来年以降は診療班員を引き連れて縦走したいと思います。

(M3 澁谷春輝)

昨年に引き続き夏山に参加させていただきました。天気やメンバーに恵まれ、とても充実した時間を過ごすことができました。山頂で見た星空やご来光は、日々の忙しさを忘れさせてくれました。また、今年は多くの患者さんが来所され、診療所の存在の重要性を改めて実感しました。今回得た経験を今後の活動に活かしていきたいと思っています。貴重な機会をいただき、本当にありがとうございました。

(M3 奥瀬遥香)

2年連続2回目の夏山でした。昨年は天候や診療活動での悔しさが大きかったので、そのリベンジのつもりで登りました。

今年の天候はとても良く、満天の星空に御来光、蝶槍に行く道では雷鳥の群れなど、蝶ヶ岳のポテンシャルを体感する事ができました。また、しっかり診療活動をこなす事ができたので、喜びと安堵感がすごかったです。雲上セミナーでは多少のトラブルはあったものの、大きな拍手も頂けました。大満足でした。最後になりますが、関係者の皆様に感謝申し上げます。

(M3 大岩篤史)

はじめての診療活動で、患者さんへの対応や、普段勉強会で練習している血圧を測定するなど様々な体験ができました。勉強会では、実践へのイメージがつかず、流れ作業のような感じになっていました。本番を経験することは、本当にできることに繋がり、是非ともみんなにも一度は夏山を体験してほしいです。仲間にも恵まれ、本当に助けられたなつやまでした。ありがとうございました。

(M3 西原周音)

## 【2班】

3度目の夏山になりました。班長としても2回目の診療活動でした。僕は毎年蝶ヶ岳に登る時は必ず高山病になっているのですが、今回は試験直後に車を走らせ、前泊し睡眠時間も足りない中、心電計の荷上げも任せ、「あ〜今年も高山病になるなあ」と諦めでしたが、、、なんとか耐えました。関係者の皆様お世話になりました。

(M4 伊原啓太)

今年は初めて夏山に登らせていただきました。体力面でかなり不安もあったのですが、同じ班の人たちもこまめに休憩を入れてくれたり応援してくれたりしてくれたお陰でなんとか登り切ることができました。班のみんなに感謝しています。また登っている途中ですれ違う方からも頑張っってねと励ましの言葉をいただきとても温かい気持ちになりました。台風の影響で2泊3日ではあったのですが、天気も良く診療活動もすることが出来たので有意義な時間を過ごすことができました。楽しかったです。

(M4 梶村むつみ)

2回目の夏山に参加し、貴重な経験となりました。勉強会や昨年の経験を活かしながら、患者さんと接することができ、先輩方の手技から診察前に患者さんが話しやすくなるような工夫も学びました。最後に、山頂で診療をしてくださった医師の皆様、共に登った診療班の皆様感謝申し上げます。

(M2 加藤初彩)

初めての蝶ヶ岳登山で不安も大きかったのですが、班員の皆さんのサポートのおかげで安心して楽しく過ごすことができました。さらに、実際に診療業務を経験したことで、今後に活かせる学びも多く得られたと感じています。何より、この夏山でのひとときは、私にとってとても思い出深いものとなりました。

(M2 満間智也)

## 【3班】

コロナが明け、夏山が再開してから今年で3回目の参加となりました。今年は残念ながら台風の影響で、山頂での1泊2日という短縮された行程でしたが怪我事故なく終わることができてほっとしています。他の班員たちは初めての夏山ながらも積極的に各々の役割を果たしてくれ、とても頼りになる後輩たちでした。

私自身、至らぬ点多々ありましたが、一緒に登ってくださった医療スタッフの先生方のサポートや柔軟な対応のおかげで、無事に3班の業務を全うすることができました。夏山の運営を担ってくれた幹部代、そしてご参加くださった医療スタッフの先生方に心より感謝申し上げます。

(M5 原田悠希)

学生として最初で最後の夏山に参加し、診療班として活動できたことは大変貴重な経験でした。登山中や予防的介入の際に「安心する」「頑張っってね」といった声をいただき、喜びと責任を感じました。また、多くの登山客が高山病について知りたいが詳しくは知らない状況にあることを実感し、予防的に知識を広める重要性を学びました。登山客の方の温かさに触れられたことも含め、このような貴重な経験をいただいたことに心から感謝いたします。

(N4 榎本乃亜)



(2025年8月撮影)

台風の影響で予定の2日短縮という形でしたが、登ることが出来て良かったです。実際の山頂での診療活動を通して、普段の勉強会がいかに大切なのかを痛感しました。下山は雨の中でしたがそれも良き経験となりました。本当にありがとうございました。

(M4 荒木丈二)

今回の活動では、薬剤カウントや診療、発表などを通じて多くの学びがありました。また、先輩方の活動を見て、自分自身の未熟さを痛感しました。知識や対応力のある仲間の姿を通して、状況に応じて柔軟に動く力や周囲を支える姿勢の大切さを実感しました。今回の経験で自分の課題を冷静に見つめ直すことができ良かったです。これからは見つけた改善点を意識し、なおしていけるように頑張ります。

(M2 堀部綾音)

#### 【4班】

今年で3回目の夏山を迎えました。天候には恵まれませんでしたが、一緒に働いたヒュッテスタッフの皆さんとの再会や、新しいスタッフの方と診療班メンバーとともに蝶ヶ岳まで散歩するなど、充実した3日間を過ごすことができました。

夏山に向けて準備をしてくれた仲間をはじめ、卒業後すぐに参加して下さった研修医の方々、そして診療班を支えてくださるすべての皆様に、心より感謝申し上げます。

(M5 高橋航太朗)

前年度は幹部として地上で仕事をし、今年度になってついに念願の蝶ヶ岳に登ることができました。実際に登山し、診療所で運営をすることで、幹部時代にしてきたことの意味を見出すことができ、大変貴重な経験になりました。蝶ヶ岳ヒュッテをはじめ徳沢ロッジのスタッフの方々には大変よくしていただき、蝶ヶ岳ボランティア診療班が大きな役割を背負っていることがよく分かったので、今後の勉強会や練習山行に対しての意欲が爆上がりしました。

(M4伊藤成洋)

僕は今回初めて夏山に参加しました。

登山に関して、僕たちの班は徳沢から登りました。天気は少し雨が降っている状態で、太陽が出ていなかったのですが、むしろ涼しくて登りやすかった印象です。5時間の登山の末とても疲れましたが、登頂した時の達成感はとても大きかったです。

山頂ではほとんど雨だったので、何もなかったと言っても過言ではなかったかなと思います。登山客は20人ほどの感じでしたが、高山病になって診療所を訪れた方はいらっしやらなかったです。おそらく、雨の予報を見て気をつけて登られていたのではと思われます。そのため、診療所の仕事はほとんどなかったです。皆怪我や病気がなくて平和だなと思う一方で、暇すぎてしんどいという複雑な感情を抱いていました。また、大雨だったので、山頂3日目以外は外に出るのも厳しかったのですが、最終日に景色やご来光、雷鳥を見ることができたので、結果的に運は良かったかなと思います。総じて、とてもいい経験だったかなと思います。

(M4 伊藤佑真)



(2025年7月撮影)

今回の夏山は天気に恵まれず、ほとんどの時間をヒュッテで過ごしていました。診療がないときには夏山班のメンバーと遊んだり、ヒュッテに揃えてあった小説から面白そうなものを選んで読んだりしていました。ヒュッテ内で過ごすのもいいですが、流石に山に来たからには外に出て散策などしたいと思っていましたが、天気はなかなか良くならず遂に2日間まるまるヒュッテ内で過ごしていました。残り2日になると雨足も弱まり、最終日には晴れ間も見えました。下山直前には雷鳥の家族が現れ

ました。思ったよりも小さくてとても可愛い鳴き声をしていました。あまり診療活動は多くありませんでしたが、充実した4日間になりました。

(M3 世古口侑己)

### 【5班】

私にとって今回が3回目の夏山となりました。メンバーが3人になったり、滞在の後半から天候が大荒れとなったりと予定外なこともありましたが、概ね問題なく終わりほっとしました。

初夏山ながら1,2年生の2人も頑張ってくれていましたし、先生方もOBの方で、とても心強かったです。ありがとうございました！

(M5 鈴木智央里)

愉快的先生やスタッフ、班員の皆様に恵まれ、楽しい夏山生活を送ることができました。体力に自信がなく迷惑をかける場面も多々ありましたが、私に歩調を合わせてくださり、本当に感謝しています。また、メールがうまく届かず、下界との連絡を先輩に任せてしまったことは誠に申し訳なく思っています。次に夏山に挑戦する際は、こうした仕事も担える人になりたいです。夏山経験者として一つアドバイスをするとすれば、救急バッグは男性陣に持ってもらうことです。あれは修行です。また、荷物は最小限で十分です。「使うかもしれない」は結局使わず、ただの荷物になります。必要なものに絞る勇気も大切だと学びました。こういったことも含め今回の夏山は貴重な体験であり、仲間に支えられて無事に過ごせたことを心からうれしく思います。

(N2 吉田萌香)

今回夏山に初めて登らせて頂き、医療面接やバイタル測定などの体験を実際に出来てとても良い経験になった上、蝶ヶ岳への登山やヒュッテでの宿泊を通して先輩や医師の方と楽しく過ごした5日間であったと思う。6時間の登山と聞いて不安ではあったが、先輩方と話しつつ登り続けたら辛かったものの案外すぐ着いたように感じる。生憎と中盤は雨が強く降っていたが、登山1,2日目は天候に恵まれ綺麗な景色を堪能出来たのは幸運であった。医療面接やバイタル測定も行った

が、雨の影響で患者さんが少なく、空いた時間でランプや会話を楽しむことが多かった。かつてこの感想文はタイトルがあり、大喜利もあったような。

また来年も登ることが出来たら嬉しく思う。

(M1 藤井惇生)



(2025年8月撮影)

### 【6班】

2年ぶり2回目の診療活動の参加となりました。当日は雨で登山道に水が溜まっており、文字通り足元が悪い中での登山となりましたが班員の協力の元、無事診療活動を行うことができました。また、6年の最後にまた蝶ヶ岳に登ることができたことは非常に感慨深いものがありました。北アルプスの山々からマッチング試験や医師国家試験に向けて大きなパワーをもらえたと考えています。最後に平素よりご協力いただいている3役の先生方、準備に尽力して下さった幹部の方々に改めて感謝申し上げます。

(M6 石川総由)

大雨で登れるかわからなかったので、荷造りの時から不安でした。当日は雨具をつければ登れる程度だったのでよかったです。登山道に入ると、木々が雨を防いでくれて、自然って改めてすごいなと感じました。山頂活動については、重要な医療面接とバイタルはまだまだ不安が残ったので、来年は完璧にして登りたいです。優しくて、安定感の凄まじい西山先生と石川先輩、話が濃密で面白い酒井田看護師、空気を和ませてくれるにこ

ちゃん、登山への意欲がすごい相良ちゃんといったメンバーに囲まれて、充実した夏山でした。

(M3 山岡伊吹)

今年は私にとって初めての夏山での活動となりました。山頂での活動を通して、これまで勉強会で学んできたことがどのように役に立つのかを実感することができました。天候が良くなかったこともあり、登山者や診療所を訪れる人は少なく、バイタル測定、医療面接などはあまりできませんでした。しかし、雲上セミナーでは、たくさんの方とコミュニケーションを取ることが出来たので、診療班側から積極的に働きかけていくことの大切さも感じる事が出来ました。山頂での3日間、貴重な経験をさせて頂けたことにとても感謝しています。

(N3 前山にこ)

夏山の登山において、運動不足のせいで他のメンバーの足を引っ張る心配や、医療面接とバイタル測定をしっかりできるかの不安があったが、経験を積むことと、頂上での景色を見ることを楽しみにしていた。息は切れながらも、たくさんの休憩のおかげでなんとか頂上に辿り着いた。悪天候のため患者の数は少なかった。医療面接は一度経験することができたが、いくつかの反省点があり、勉強会の重要性を感じた。次回は同じ間違いがないようにする。霧のせいで、なかなか景色は見る事ができなかった。また登れるときに期待をしている。勉強会で学んだことが実際に見れたことは貴重な経験であった。また、ほぼ初対面の先輩方と2泊3日を過ごすことに緊張していたが、しりとり、将来の話、架空の彼女の話などで盛り上がったと思うので嬉しかった。様々な学びと楽しみがあって全体的にとっても良い経験であった。

(N1 金子相良)

#### 【7班】

今年で3回目の夏山参加となりました。コロナが明けてから毎回この機会をいただけていることに、改めて感謝の気持ちでいっぱいです。

私は写真を撮ることが好きで、夏山でも「雷鳥」「雲海」「星空」の3つを撮影することをひとつの楽しみにしてきました。これまでもチャンスはあったのですが、なか

なか納得のいく一枚には出会えず、今回こそはと意気込んで臨みました。幸い天候にも恵まれ、念願だった雷鳥にも出会え、雲海も星空も撮影することができました。ただ、自然相手ということもあり、完全に満足できる写真を撮るのはやはり難しく、自然写真の奥深さを改めて感じました。それでも、この挑戦はこれからも続けていきたいと思えます。

また、今回の夏山では、医療スタッフの山田看護師、浅井医師、竹内医師のお三方に大変お世話になりました。限られた環境の中でも冷静に、そして頼もしく対応されるお姿は本当に心強く感じました。深く感謝申し上げます。

今年も多くの学びと感動を得られたことを糧に、来年の夏山にもより一層前向きな気持ちで臨みたいと思えます。

(M5 水野太陽)



(2025年8月撮影)

今回初めて夏山に参加させていただきました。山頂での診療活動は勉強会などで練習していたつもりですが、初めはなかなか慣れず戸惑うばかりでした。それでも同じ班のメンバーと協力しながら楽しく有意義に活動することができました。

雲上セミナーでは登山客の方々に向けて高山病について発表しました。普段は学生同士で発表することば

かりなので、一般の方に向けて発表するのは貴重な経験となりました。雲上セミナー後の血圧測定会でも参加者の方々とお話ししながら楽しく血圧測定をすることができました。

真面目な診療活動の合間でご来光や雷鳥、星空を見ることができてよかったです。

実際に夏山に参加したことで改めて蝶ヶ岳ボランティア診療班の一員としての自覚と責任感を実感することができました。

(M4 今井孝明)

蝶ヶ岳での夏山診療活動では、天候に恵まれ、山の動物たちにも出会うことができ、自然の中での活動を存分に満喫できました。一方で、山特有の天候の変化や物資の限られた環境は大変でしたが、その中で工夫しながら最大限の医療を行う先生方の姿はとても印象的でした。登山者への雲上セミナーでの発表や、仲間と協力して診療に関われたことに大きな達成感を得られ、この経験は自分の成長にもつながったと感じています。

(N3 杉浦愛純)

一年生で夏山でのボランティア診療活動に参加させていただき、ありがとうございました。山頂といういつもとは違う現場での経験を通して、物事のありがたみや、先輩方から様々なことを学びました。また、自分自身の知識不足や未熟な考え方から反省点がたくさん発見されました。一つ挙げるとするならば山頂のスタッフさんや同じ班の先輩方に共通するマインドとして周りを優先して常に気遣い、ポジティブで温かい、助け合いの気持ちを持ち続けるマインドです。これは私に一番足りないことだと強く感じ、これからの生活や看護師になってからも胸に刻んで忘れることはないでしょう。

(N1 栗本結衣)

## 【8班】

今回は3度目の夏山、2度目の班長として診療活動に参加いたしました。お盆の時期と重なり患者数も多く、連携の重要性を改めて実感しました。医療スタッフの方や班員の協力のおかげで、これまでの経験を生かし、落ち着いて行動できたことに成長を感じました。また、快

晴の4日間に恵まれ、山頂からの雄大な景色や雷鳥との出会いも心に残りました。さらに、2年前に学生として共に登った先輩が医療スタッフとして活躍される頼もしい姿を目にし、私も一層精進したいと強く思いました。

(M4 藤井祐宇)

2年目の夏山は、昨年よりも濃い現場経験ができました。次々と訪れる患者さんや重症の方への対応は初見のものが多く、焦る中でも、勉強会でしか知らなかった輸液や血糖測定といった手技に挑戦できたことは、非常に学びになりました。昨年の経験を頼りに対応でき、昨年よりも確実に良い期間を過ごすことができ、自分の成長に確かな手応えを感じました。この環境を乗り越えて得られた技術と対応力は、これからの自分にとって、かけがえのない財産になったと思います。

(M4 細田桃花)

初の夏山は私の中でとても貴重な経験になりました。お盆期間ということもあり、多くの患者さんが来診され、雲上セミナーも大好評でした。ヒュッテで過ごした4日間で山のマナーや勉強会で学んだことを発揮することができました。学生の私たちには、できることが少ないからこそ、医療面接やバイタルサイン測定など、出来ることに自信を持って実践していくことが大切だと学びました。他にも、登山客の方とお話したり、ご来光や満天の星などを見る中で、山の魅力を多く感じることができました。

(N3 高橋侑里)

一年のうちから、夏山に登り、実際の患者さんに対し医療面接を行い、バイタルを測定し、話を聞く経験ができたのは非常に貴重でした。現場で、物資や設備が整っていない中でも的確な判断を下す医師や理学療法士の方などを間近に見ることができ、自身の将来の仕事についても考える良い機会となりました。

(M1 岩澤佑太郎)

## 【9班】

班長として迎えた初めての夏山は、楽しみである一方、不安も多くありました。しかし、実際に登ってみると、その不安は吹き飛び、思い出に残る貴重な経験となりました。

9班の仲間とは前泊から大盛り上がりし、山頂ではしっかりと仕事をこなしつつ、夏山トーナメントやカードゲーム、お散歩や雑談など、全力で夏山を楽しむことができました。さらに、医療スタッフの方々や患者さんとの素敵な出会いもあり、学びと喜びの多い時間となりました。

最後になりましたが、9班の仲間をはじめ、医療スタッフの方々、三役の先生方、幹部、蝶ヶ岳ヒュッテの皆さま、その他ご尽力いただいた多くの方々にも心より感謝申し上げます。

(M4 古田優菜)

今回は5年生にして初めての夏山でしたが、初日に7人の患者さんを診察できたなどとても充実した日々となりました。特に印象に残っているのは予防的介入カードと雲上セミナーです。どちらも登山客の皆さんと気軽に話せる機会となり、多くの貴重なお話を伺い良い経験となりました。医療スタッフやヒュッテスタッフの方々も優しく接していただき、安心して診療活動を行うことができ、とても頼りになりました。私が、医師になった後も是非夏山診療活動の一端を担いたいです。

(M5 宮永大二郎)

8月に蝶ヶ岳に二泊三日で登り、山頂で診療活動のボランティアに参加しました。昨年に続き二度目の登山でしたが、昨年よりも体力的に余裕をもって登ることができ、自身の成長を感じました。これまであまり話す機会がなかった班員とも交流を深めることができたのが大変嬉しかったです。診療活動を通じて貴重な学びを得るとともに仲間との絆も深まり、来年もぜひ参加したいと強く思いました。

(M3 大橋遼誓)

大学に入る前まで登山経験がほとんど無かったので、練習山行は参加したもののやはり夏山への不安は拭えませんでした。想像通り登りはかなりキツく、休憩も

たくさん取って頂く形になりましたが、なんとか山頂までたどり着くことができ、自分の中で春からの成長を感じて、大きな達成感を得ることが出来ました！私たちの班は天候に恵まれたこともあり、山頂では充実した活動を行うことが出来ました。診療活動では、初めて知ること学ぶことが沢山あったり、勉強会で練習した医療面接やバイタル測定が実践できたり、とても貴重な経験になりました。先生や先輩方への憧れもより大きくなりました。診療活動以外にも、素晴らしい展望や星空、御来光を見たり、先輩や先生方とたくさんお話したり、ここには書ききれないほど多くの素晴らしい経験をすることができました。一緒に登ってくださった班員の皆さんや、この活動を作り上げてくださっている3年生を中心とした先輩方、同期に感謝を伝えたいです。ありがとうございました。

(M1 多久田真央)

## 【10班】

2回目の夏山にして、ついに班長を任されることとなりました若杉です。今年は徳沢ルートに挑戦し、とても頑張りがいのある登山でした。去年の夏山は運良く晴れ、星空を見ることができ、ライチョウもみれて大満足の夏山でした。そして今年もどちらも見ることができ、登山に関する運はかなり良いのではないかと感じております。この調子でブロッケン現象もいつかみれるのではないかと考えております。今年も班員に恵まれ、医療スタッフの方々にも大変お世話になり充実した診療活動ができました。楽しかったです。

(M5 若杉大路)

初めての蝶ヶ岳で、副班長という役割にドキドキしていましたが、班員のみんなが優しく面白く接してくれたおかげで、とても楽しい登山となりました。天気にも恵まれ、夜には美しい星空を、朝には素晴らしい御来光を見ることができ、忘れられない体験となりました。診療活動では大変緊張しましたが、無事に行うことができよかったです。

(M4 児玉奈緒)

とても学びの多い夏山でした。資機材が限られた中での診療を間近でみれたことはもちろん、日々の勉強会で練習したバイタルサイン測定や医療面接を通して患者さんのことをすばやく正確に観察することの難しさを感じ、これからも医療従事者の一員となるために頑張ろうと思いました。天候にも人にも恵まれとても大切な思い出となりました、楽しかったです。

(N3 樋山咲乃)



(2025年8月撮影)

初めての登山で診療活動のいろはも分からない自分でしたが、先輩方からご教導いただき、何とか無事に診療活動をおえさせていただくことができました。何よりも印象に残ったことは先輩方と一生懸命に準備した雲上セミナーです。特にバイタルチェックが盛り上がり、高校生の後輩たちに診療活動を紹介できたのも嬉しかったことの一つです。

(M1 小林政輝)

#### 【整理班】

私はこれまで毎年お盆の時期に参加してきましたが、今年は初めて整理班として活動に参加いたしました。閉所作業を通じて、日頃自分が直接関わらない部分においても、多くの方々のご尽力によって診療活動が支えられていることを改めて実感いたしました。また、1・3年生が診療活動のみならず、雲上セミナーや予防的介入、閉所作業にも積極的に取り組む姿を見て、大変頼もしく感じました。幸い天候にも恵まれ、順調に登山を進めることができ、山頂では360度の大パノラマを眺めながら有意義な時間を過ごすことができました。お世話になりました全ての皆様に感謝申し上げます。

(M6 久松脩典)

今回の夏山では、準備班と整理班の班員として参加しました。準備班と整理班特有の仕事を体験し、夏山の様々な側面を感じることができました。来年の準備班・整理班に引き継いでいきたいと思います。また、整理班では来診される患者さんが多く、患者さんごとの医師の方の対応を見ることができて、来年度の夏山への良い経験となりました。長い山頂での期間で天候に恵まれる日が多く、蝶ヶ岳の多くの魅力を体験できたのも良かったです。

(M3 近藤尊彦 ※準備班でも活動に参加)

薬剤カウントや荷下ろし準備など多くの業務に追われ忙しい毎日でした。患者さんの来所も多く、初めての診療所対応に不安もありましたが、医師や先輩方のサポートのおかげで無事に役割を果たすことができました。雲上セミナーでは発表前に緊張しましたが、会場も盛り上がり貴重な経験となりました。綺麗な星空やご来光など美しい山頂の景色もみれて充実した4日間でした。今年の学びを今後活かしていきたいです。

(M1 西澤匠哉)

二年ぶりの登山でちゃんとついていけるか不安だったのですが、先輩方が引っ張ってくださったおかげで、ごいスピードで登ることが出来ました。疲れ切った後ヒュッテで頂いたカレーは格別でした。一昨日、昨日は患者さんが大量に来ていたのですが、今日は患者さんも来ず平和に過ごせて、のんびり散策する時間も取れました。山頂付近にあるよく分からない道を進んでいくと、小さな花がたくさんありとてもきれいでした。初めての夏山であり、分からないことだらけだったのですが、先輩方に助けられなんとか仕事をこなすことが出来ました。来年は今年学んだことを活かし、診療班に貢献していきたいです。

(M1 鈴木徹平)

## 患者さんからのお言葉

(はがきより一部抜粋)

カルテ番号:25-004 7月28日

山の診療所に来て本当に有難かったです  
痛みのケアの人にも感謝し、学生さん達には  
実地での勉強出来る場所になると思うので  
この山小屋を大事にしようと思います

カルテ番号:25-007 7月29日

学生さんの丁寧な問診は、とてもありがたかったです。また、医師の方がちょっとした質問にも丁寧にお答え頂き、身体の不安を解消できました。夜の高山病・食事の勉強会も楽しく参考になりました。

カルテ番号:25-020 8月8日

単独での縦走は初めてだったので、いつもより体調に関してナーバスになっていたところ、診療班・学生の方に親切に寄り添っていただきメンタル的にも楽になりました。登山者にとって心強く、有り難い存在です。これからもぜひ素晴らしい活動を続けて下さい。

カルテ番号:25-023 8月9日

やさしくていねいな診察に感動しました。山小屋に診療所があるのは登山者にとってとてもありがたいです。今回親子で診察して頂き本当にありがとうございました。

カルテ番号:25-036 8月17日

担当の先生をはじめ、医学生の皆さんが丁寧に症状を聞いて下さり、まずそれだけで不安な気持ちは落ち着きました。限られた医療体制の中で適切な検査・診断・処置、その後

のアドバイスをしてくださったお陰で、しっかりとした気持ちで無事下山することができました。“山”という特殊な場所では、医療技術のみならず「人の支え」が大きな意味を成すのだと実感しました。皆さんの活躍を心より応援しております。これからも活動を続けて下さいませよう、よろしくお願い致します。

カルテ番号:25-044 8月19日

知識・経験不足で登山した私にとって、山小屋での講義・治療所の存在が助かります。皆様の親切丁寧な対応に感謝申し上げます。

カルテ番号:25-052 8月22日

症状について、とてもいねいに聞き取ってください、患者に寄り添う姿勢がありがたかったです。登山者にとって病院のない山中でボランティア診察を受けられるというのは、貴重な機会であり頼もしい存在です。お世話になりました。

カルテ番号:25-056 8月23日

丁寧に診ていただき、不安が解消されました。今後の対策も教えて頂いたので安心して来シーズンも登山しに行くことが出来そうです。本当に感謝です。

カルテ番号:25-057 8月23日

学生さんや医師の方が迅速かつ丁寧に対応して下さい、本当に助かりました。登山家の支えになって頂き、ありがとうございます。引き続きの活動、ご活躍応援しております。

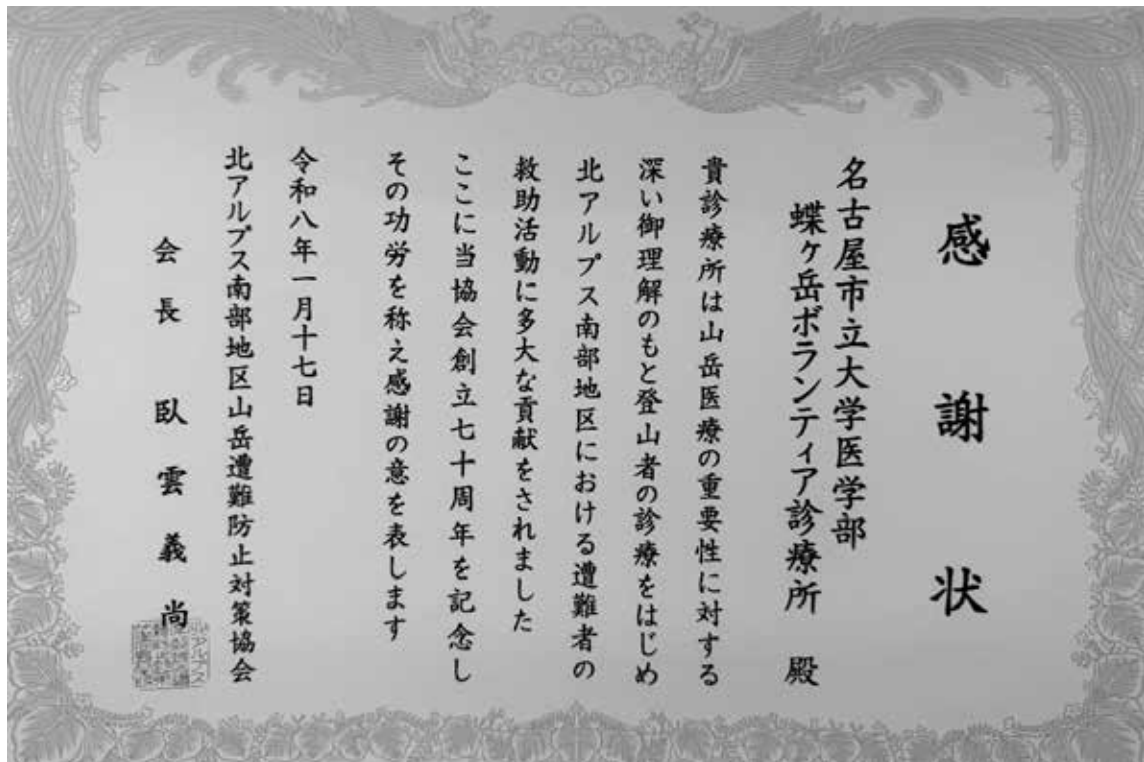
## メディア取材及び資料集

蝶ヶ岳ボランティア診療班

2025 年度学生代表 澁谷春輝 (M3)

- ・感謝状写真(酒々井代表説明文)と本学広報課 X 投稿文

北アルプス南部地区山岳遭難防止対策協会よりいただいた感謝状



名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療所は 2026 年 1 月 19 日に北アルプス南部地区山岳遭難防止対策協会の臥雲義尚(がうんよしなお)会長(現松本市長)より山岳医療への多大な貢献として感謝状を授与されました。(同協会 70 周年記念式典にて)

当該診療所が感謝状をいただくのは今回で 2 回目になります。(1 回目は 2016 年 1 月 16 日菅谷昭会長(当時松本市長))(同協会 60 周年記念式典にて)

尚、北アルプス南部地区山岳遭難防止対策協会は松本警察署内に所在しています。2016 年の感謝状授与の様子は名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療所 2016 年度報告書 p47～48 をごらんください。感謝状は当該診療所内に掲示してあります。

(文責 酒々井眞澄 名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療班代表)

2026年2月16日(月)に名古屋市立大学広報課 X に感謝状授与の記事が投稿されました。



### 【安全登山への貢献】 広報BREAD編

1月19日、名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療所は北アルプス南部地区山岳遭難防止対策協会の臥雲義尚会長より山岳医療への多大な貢献として感謝状をいただきました。2026年も活動にむけて準備を進めています😊  
これからも登山者の診療に貢献していきます🌱



(2025年8月撮影)

## 【診療活動の取材に関する合意書】

名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療班代表  
酒々井 眞澄 殿

- 1) 患者の診察の様子は診療情報・個人情報も多く含んでいるので、医師が患者へ説明して許可をとった上で取材します。
- 2) 医師が診療活動に支障を来すと判断したときは取材できないことを承諾します。
- 3) 名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療班の活動を取材するに際しては、プライバシーに関する場合を考慮して取材対象となる人から許可を取った上で取材します。
- 4) 取材の利用については当社に限るものとします。
- 5) 新型コロナウイルス感染症の予防対策を取った上で取材します。

\_\_\_\_\_ (自署) \_\_\_\_\_ (年月日)

社名

担当者

住所

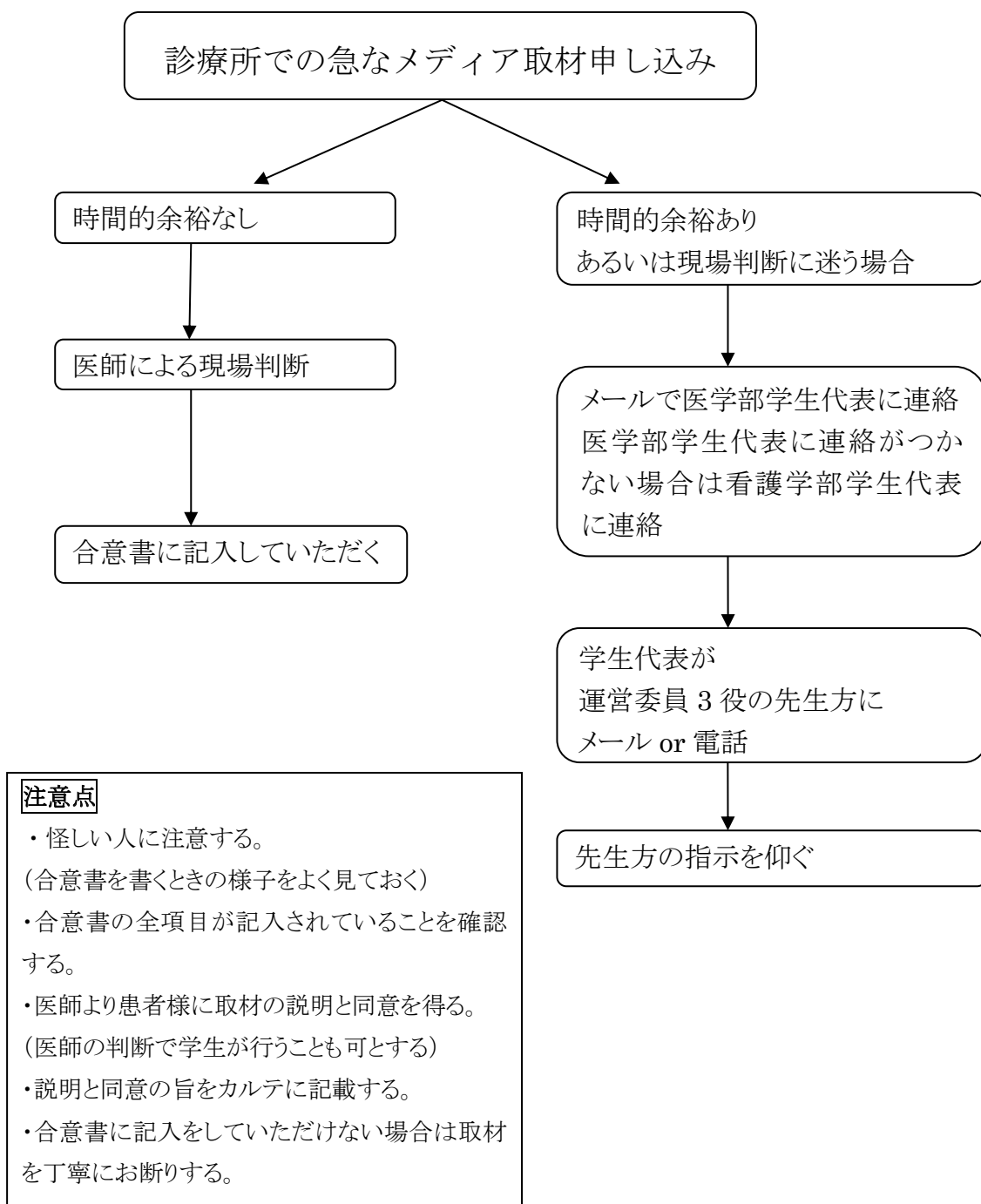
電話番号

ファックス番号

携帯電話番号

E-mail アドレス

## 診療所での急なメディア取材申し込みへの対応フローチャート



## 短時間での一時閉所チェックリスト

2025年度 蝶ヶ岳ボランティア診療班

### 全般

- 様子を写真やビデオにおさめる

### 情報技術

- パソコンの電源を切る
- スマートフォンの電源を切る

### 診療所・宿泊部屋

- 診療所内部・宿泊部屋内の写真を撮る
- 宿泊部屋の火の始末をチェックする(カセットコンロ等)

### ごみ

- 一般ゴミ、医療ゴミ、黄色い箱のゴミを確実に梱包する
- 一般ゴミ、医療ゴミ、黄色い箱のゴミを荷下げる

### 班長の責任で最終確認を行う

- 班長は**自分で**宿泊部屋の火の始末をチェックする(カセットコンロ等)
- 診療所のドアを施錠する
- ヒュッテの中村梢様、藤田剛央様、中村楓様のいずれかにかぎを返す
- 一時閉所作業完了の旨とお礼をヒュッテの中村梢様、現地スタッフ(中村楓様)に伝える
- 天候や人員などの状況を考え荷下げるをするかの最終的な判断をする(荷下げる・荷下げしない)

## 短時間での完全閉所チェックリスト

2025 年度 蝶ヶ岳ボランティア診療班

### 薬剤

- カウントせずに A 材(輸液以外)とパルスオキシメーターを梱包する
- カウントせずに A 材(輸液以外)とパルスオキシメーターを荷下げる
- 作業風景をビデオか写真に撮る

### 情報技術

- パソコンの電源を切る
- スマートフォンの電源を切る

### 診療所・宿泊部屋

- 診療所内・宿泊部屋内の写真を撮る
- 寄付金、公衆電話用のコイン、領収書を回収する
- 寄付金、公衆電話用のコイン、領収書を荷下げる
- カルテを回収する
- カルテを荷下げる
- パソコン、スマートフォン、名札を回収する
- パソコン、スマートフォン、名札を荷下げる
- 先生からの借り物を回収する
- 先生からの借り物を荷下げる
- 診療所の看板 2 個、掲示物を外す
- 診療所の看板 2 個、掲示物を所定の場所に置く
- 閉所看板をドアの外側に掛ける
- ビニールシートで窓を覆う
- 診療所・宿泊部屋を掃除する
- 宿泊部屋の火の始末をチェックする(カセットコンロ等)
- 心電図計、ベッドにビニールシートを被せる
- AED の動作確認をする

### ごみ

- 一般ゴミ、医療ゴミ、黄色い箱のゴミを確実に梱包する
- 一般ゴミ、医療ゴミ、黄色い箱のゴミを荷下げる

班長の責任で最終確認を行う

- 班長は**自分で**宿泊部屋の火の始末をチェックする(カセットコンロ等)
- 診療所のドアを施錠する
- ヒュッテの中村梢様、中村楓様のいずれかにかぎを返す
- 閉所作業完了の旨とお礼をヒュッテの中村梢様、現地スタッフ(中村楓様)に伝える
- 天候や人員などの状況を考え荷下げをするかの最終的な判断をする(荷下げする・荷下げしない)



(2025年8月撮影)

## いわゆるコロナ禍を乗り越えて診療班活動を継続するための方策

蝶ヶ岳ボランティア診療班

2025 年度学生代表 澁谷春輝 (M3)

私たちの最優先する事項は安全な活動です。従って、班員の健康管理と診療活動における感染対策もまた重要な課題です。私たちは 2023 年 4 月に全 75 項目からなるガイドラインを策定し、これを遵守することとしています。ガイドライン策定にあたってはその効力が十分に発揮されるよう、他の団体が発行しているものを参考にしながら私たちの活動の場面を想定しています。2023 年 5 月 8 日に新型コロナウイルス感染症が 2 類相当から 5 類へ変更されたことに伴って適宜アップデートし、「名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療班の学生参加に関するガイドライン ver.1.3」(2024 年バージョン)としました。

このガイドラインは以下の3つを目的として 2024 年バージョンに策定されました。

- ① 全ての班員が名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療班としての活動を安全に行うこと
- ② 本活動が新型コロナウイルス感染症の拡大を誘発させないこと
- ③ 医療に関わる学生として本活動での模範となる感染予防対策を啓発すること

ガイドラインは、例えば、参加基準、中止基準、班員の感染対策、診療活動における感染対策、活動中にコロナ感染の疑いがある場合の対応などについて記載されています。

(補足)

2023 年の発熱受診者の症例への対応に基づき、「学生向け診療活動における感染対策」をアップデートしています。(詳細については 2023 年報告書 p45、p65 を参照)①学生、患者ともに不織布マスクを着用すること、②学生は手袋を着用すること、③初回、非接触型の体温計で体温を測定すること、④発熱していた場合は、学生はその診療に関わらず医師に引き継ぐことが明示されています。加えて、風邪様症状の確認に際しては体調確認票を作成し、問診の際に活用することとしています。新型コロナウイルス感染症には適切な対応が求められます。診療班活動に参加する学生はこの点を理解しなければなりません。

## コロナ禍からの蝶ヶ岳ヒュッテ・診療所の変遷

蝶ヶ岳ボランティア診療班 運営委員長 坪井謙

### 1) 活動再開に向けての準備

コロナ禍により2020年から2年間夏期山岳診療所を開所できませんでした。2022年に感染者数の減少とともに職員の制限が緩和され、運営委員会をWEB会議で行うようになりました。学生の引き継ぎに明文化されたマニュアルがなく活動再開には苦労しました。WEB会議のみでは班員に意志が伝わらないなどの問題もあり、2024年からは部室とWEBのハイブリッドでの会議にしました。

### 2) コロナ対策

学生活動と診療活動に分けてコロナ対策のガイドラインを作りました。2022年7月夏期合宿可の通知があり、学生活動のガイドラインを適宜修正しました。診療に関する対策は名市大救急部の診療班OB坪内希親先生のご指導のもと取りまとめました。2023年5月8日に「新型インフルエンザ等感染症(2類相当)」から「5類」へと変更され、ガイドラインを改訂し、各年度実情に合わせて内容を緩和し更新しています。

### 3) 蝶ヶ岳ヒュッテの変化

2019年12月15日に先代オーナー神谷圭子さんがご逝去され、長女の中村梢さんが引き継ぎました。新体制になった直後にコロナ禍となり、運営体制が大きく変わりました。コロナ禍前から在籍する山小屋スタッフは3名のみで、酒井さんは大滝小屋、鈴木さんは事務所勤務になり、現地スタッフは入れ替わりました。現在次女の中村楓さんがヒュッテに常駐しています。診療班が不在の2年間は大きな問題はなく過ぎ、診療所の必要性も危ぶまれました。

新型コロナ感染対策のため、2022年までは登山客・ヒュッテ従業員ともに、部屋には間仕切りを入れていました。2020年からヒュッテは完全予約制となり宿泊者数に限りがありました。かつての人を詰め込むだけ詰め込むことができなくなりました。2022年からWEB予約が中心となり、電話予約は事務所で対応するようになりました。改築などを経てヒュッテ宿泊者数はやや増加しましたが限りがあるままです。一方で個人のテント宿泊者が増えました。近年では円安の影響で外国人登山客が増えてきています。

### 4) 診療所の変化

2020~2022年の間、診療所はテント泊の方の受付窓口として使用しました。2022年は以前の食堂隣の更衣室を改装し診療所を移転しました。旧診療所は発熱者が出た時の部屋としました。しかし、隔離者の導線の問題などで、2023年以降は以前の場所にもどし、改装した元更衣室を発熱者の待機場所としました。2022年7月16日開所しましたが、長野県に医療警報が発出されたため7月21日に夏山診療活動を中止しました。患者は2名のみで、学生は現地参加できず、経験・引き継ぎに問題を抱えた

まま次年度に持ち越しました。発熱者、ヒュッテ従業員の体調不良者の電話対応をしました。密を避けるため雲上セミナーや症例検討会は中断しました。2023年は土日・お盆のみ開所しました。診療班員が不在時に診療所を訪ねる方も増えたと聞いており、ヘリ搬送事例もあったことから診療所の必要性は再び増えてきました。2024年からは平日も含めて続けて開所しました。患者数はコロナ前と比べると半分から1/3程度で、需要からも参加人数は制限したままとし、平日の医師不在期間を容認しました。雲上セミナー、症例検討会ともに再開しました。

#### 5) 宿泊について

開所から20年間、先代オーナー中村圭子さんのご厚意により1人1泊1,000円で賄っていただきました。しかし、2022年からは運送費・物価高騰や世界情勢、客足が激減したヒュッテの運営状況などにより滞在費については毎年検討することになりました。2022年の食費は、朝食1,000円、昼夕食1,500円、食材の補助がある自炊は500円と決めました。ただし、かつての冬季小屋自炊スペースは物置になり使用できなくなり、登山客と同様に外で作るか、入口の風除室などでの自炊になりました。滞在費については客室を使用することもあり、素泊まり費用の半額とし、テント泊については無料としました。2023年からは別邸を使用し、一食1,000円、宿泊費5,000円と設定しました。学生については診療班運営費から後日会計とし、診療スタッフなどについては実費を負担し、現地清算としました。当初客室利用の値段であったこともあり、2024年度は診療班員一人当たり、一食1,000円、宿泊費2,000円としました。2025年は食費のみの1食1000円と取り決めました。診療所を持つ他の山小屋も経営が苦しい中、どこまで診療所に山小屋が援助するかが問題になっています。また、学生の参加人数を増やすため、テント宿泊の案はありますが、実現していません。

#### 6) 診療班の今後

2020年からヒュッテ宿泊者の減少により、蝶ヶ岳診療所を訪れる患者は減りました。診療所に必要とされる班員の数、密を避けること、費用の問題から診療所に滞在する人数は限られます。2023年はコロナ対策が緩和され登山客が増え、診療所の需要は増えてきました。途切れていた松本市・長野県からの補助も減額ながらも再び得られるようになりました。2024年は開所期間が増え滞在費も増えました。減少した寄付金や減額された補助金のみでは、継続的な運営は困難と判断して、現地スタッフには参加費をいただきました。2024年の実績から松本市・長野市からの補助金、医学会からの支援金が再開され、また寄付金も多く集まるようになり、またヒュッテでの宿泊費を個人負担する必要がなくなったため2025年からは宿泊費を診療班負担としました。

患者の絶対数はコロナ禍前と比べて減ったものの重症患者は5年おきほどに一定数いますので、診療所の需要はあります。ただし、求められる規模に関してはその都度検討していかなければいけません。現在は現地参加者を制限し、引き継ぎ日を設けないことで、必要最小限の人員で運営を続けています。学生は所属者の半分ほどしか参加できておらず、高学年でも初参加である問題もあります。引き続き皆様のご理解とご協力が必要になりますので、よろしく申し上げます。

## 2025年度 寄付者御芳名

誠にありがとうございました。

青木康博 明石恵子 浅井昂大 薊隆文 足尾陽 安東知里  
井坂ひろえ 石川佐和子 石川達也 石田真一 石田恵章 石田宗紀  
板倉未奈美 井手上駿 井上右喬 伊上大毅 伊上彩乃 井村尚斗 岩城俊亮 岩田恵理子  
内野博之 おおみやひろこ 小熊孔明 大森久紀 岡田峰則 奥田佳介 梶川奨真 加藤圭  
加藤悠太 蟹江麻由 兼松孝好 狩谷哲芳 川出義浩 かわべまゆみ 河村逸外 神田伸一  
鬼頭佑輔 木村颯花 栗原瑞季 黒澤冒洋 小出瑛景 榊原嘉彦 佐々木謙 佐々木貴久  
佐藤奈々 佐藤裕也 柴田志御里 柴田尚輝 嶋田匡孝 下方征 社本穂俊 白石葉菜  
酒々井眞澄 鈴木智子 瀬古健登 瀬古理恵 高山悟 竹内了哉 竹内仁美 たさきももこ  
田中秀和 中島貴裕 中島晴菜 中島亮 仲田純也 永野有紗 中浜花奈 成田朋子 成瀬兼人  
西山真由 羽柴文貴 長谷部和香 畑中景 服部滉平 服部麗 花井信広 早川純午  
早川智章 原田英幸 日置啓介 日比野あゆみ 藤井康生 藤井惇生 藤永拓実  
藤永千晶 藤原昂佑 藤原万滉 船坂珠里 松浦武志 三鬼龍馬 水野翔太 宮内伸幸  
村山敦彦 安田美祐 山本祐輔 吉田嵩 渡邊周一 渡邊由佳  
匿名ご希望の方2名

(敬称略五十音順)

次の団体からのご協力に心より感謝申し上げます。

相澤病院  
安曇野赤十字病院  
株式会社山の天気予報ヤマテン  
蝶ヶ岳ヒュッテ  
徳澤園  
徳沢ロッヂ  
長野県警察本部航空隊

長野県  
長野県松本市  
名古屋市立大学  
名古屋市立大学医学会  
名古屋市立大学医学部同窓会瑞友会  
名古屋市立大学交流会  
日本大学医学部徳沢診療所  
ほりで一ゆ 四季の郷

(敬称略五十音順)

## 2025 年度報告書係

医学部 6 年 中川楓美恵 医学部 5 年 若杉大路 医学部 4 年 児玉奈緒  
医学部 4 年 弓桁千裕 医学部 3 年 梅原瑞希 医学部 3 年 大岩篤史  
医学部 2 年 奥田琉那

連絡先を変更された班員は下記まで連絡をお願い致します。

**chogatake-staff@umin.ac.jp**

2025 年は会計年度が変更になったことに伴い当該報告書の印刷が 5 月になりました(例年は 3 月末日)。名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療班にご寄付いただき誠にありがとうございました。皆様からのご寄付は、今後の活動費に充てさせていただければと考えています。これからも皆様のご支援にお応えできますよう活動を続けていきます。引き続きのご理解とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。(報告書部門長 大岩篤史)

2026 年 5 月

名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療班

寄付金受付窓口

郵便振込 口座番号 00830-3-59137

加入者名 名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療班

---

名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療所 2025 年度報告書

2026 年 5 月 第 1 刷発行

発行者 酒々井眞澄

発行所 名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療班

〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町川澄 1 番地

電話:(052)853-8993

URL:<http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/igakf.dir/chyogatake.htm>

印刷 名古屋市立大学生協川澄店

---

Copyright 2026 by Mt. Chogatake Volunteers' Clinic (200 部)

